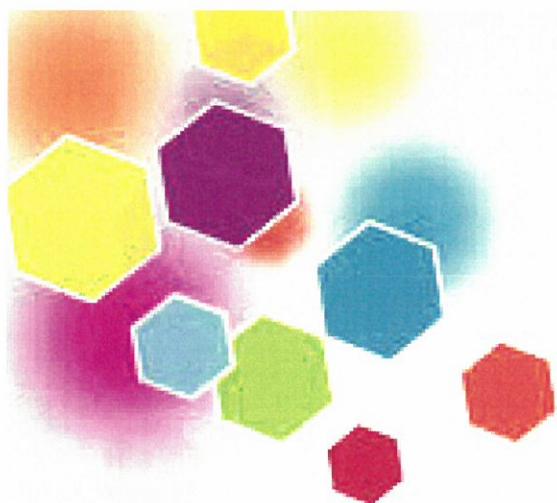


平成30年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書



平成31年3月

田村市教育委員会

はじめに

教育委員会では、児童生徒の健全育成にかかわる学校教育はもとより生涯にわたって生きがいをもちよりよい人生を歩むための生涯学習の充実のほか、芸術文化活動の推進や文化財の保護、スポーツの振興など多岐にわたっています。これらの事業内容は、学校教育課、生涯学習課、教育総務課のほか、各地域の公民館等所属機関の職員が一丸となり、事務事業を分担して市民の皆様の負託に応えるべく業務にあたっているところですが、市民の皆様にその成果を周知していただくのは、大変難しいことであると感じております。幼稚園、小・中学校にお子様をお預けいただいている保護者の皆様にはお子様の様子を通して、生涯学習関連にかかわる事業についてはその関わりの中、それぞれご承知いただいている部分もあろうかと思いますが、取組の状況を発信する機会は部分的であります。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が平成19年に改正されて、事務事業の点検・評価並びに公表が義務づけられたことを受け、教育委員会としては、平成20年度から自ら事務事業を点検・評価するとともに外部評価を経て、評価結果を公表してまいりました。

制度の制定から11年目にあたり、改めて自らの事務事業をより一層厳しく点検・評価して積極的に公表し、ご批正をいただいた上で改善していく意を強くしたところであります。

平成30年度は「田村市教育大綱」の一部改訂を行い、教育委員会と学校との連携を密にするとともに、現場の状況に応じてフレキシブルに対応する体制のもと、実質的な成果が目に見えるように努力を重ねてまいりました。本報告書は、その取組の記録となる側面もあるものと考え、PDCAのマネジメントサイクルが機能するように工夫改善を加えて作成いたしました。市民の皆様には、点検・評価の状況をぜひご覧いただき、忌憚のないご意見をいただきまして、教育委員会の取組がより一層活性化するよう改善を加えてまいりたいと考えております。

教育委員会が市民の皆様にとりまして身近な頼りになる存在として感じていただけますよう努力してまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

平成31年3月

田村市教育委員会教育長 飯 村 新 市

目 次

I	事務事業の点検及び評価の目的、実施方針	1
II	主な施策と指標	2
1	教育振興推進プログラムダイジェスト I（学校教育課所管事業）	3
	<u>施策 1 学校教育の充実</u>	
	施策目標 1-①：「知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の『確かな学力』を確立します。」	
	指標目標 1-①(1)：学力向上の支援	4
	指標 1-①(1)-1：「授業スタンダード」アンケート調査結果（田村市立小中学校）	4
	指標 1-①(1)-2：学力の定着度（田村市学力実態調査）	5
	指標 1-①(1)-3：学力の定着度（全国学力学習状況調査）	6
	指標目標 1-①(2)：英語が使える人材育成	7
	指標 1-①(2)-1：外国語指導助手の派遣実績	7
	指標 1-①(2)-2：田村市学力実態調査における全国との比較	7
	施策目標 1-②：「規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します。」	
	指標目標 1-②(1)：道徳教育の充実	8
	指標 1-②(1)-1：道徳教育指導状況	8
	指標目標 1-②(2)：体力の向上の支援	10
	指標 1-②(2)-1：全国体力・運動能力調査における田村市の状況	10
	指標 1-②(2)-2：田村市小学校水泳・陸上大会の参加者数	12
	指標目標 1-②(3)：健康教育の推進	12
	指標 1-②(3)-1：放射線教育の実施状況	12
	指標 1-②(3)-2：食育に関する栄養教諭・栄養士の授業支援状況	13
	指標 1-②(3)-3：薬物乱用防止教室及び思春期保健教室実施状況	13
	指標目標 1-②(4)：読書活動の推進	14
	指標 1-②(4)-1：福島県読書に関する調査	14
	施策目標 1-③：「一人一人のニーズに応じた教育を推進します。」	
	指標目標 1-③(1)：特別支援教育の充実	15
	指標 1-③(1)-1：特別支援教育にかかる相談・訪問等による支援	15
	指標目標 1-③(2)-1：Q-U検査による学級満足度尺度及び学校生活意欲プロフィール	16
	施策目標 1-④：「地域に開かれた学校教育を実現します。」	
	指標目標 1-④(2)：開かれた学校づくり	18
	指標 1-④(2)-2：学校関係者評価の実施状況	18
	施策目標 1-⑤：「学校支援の充実に努めます。」	
	指標目標 1-⑤：学校支援の充実	19
	施策目標 1-⑥：「教職員の資質の向上を図ります。」	

指標目標 1－⑥(1)：教職員の指導力の向上	20
指標 1－⑥(1)-1：計画訪問等の実施状況	20
指標目標 1－⑥(2)：服務倫理の確立と働き方改革	21
指標 1－⑥(2)-1：教職員の不祥事根絶と勤務の適正化	21
2 教育振興推進プログラムダイジェストⅡ（生涯学習課所管事業）	22
<u>施策 2 生涯学習の充実</u>	
(1) 施策目標 2－①：「公民館の活性化を図ります。」	
指標 2－①(1)-1：市民のニーズを捉えた学級講座の企画	23
指標 2－①(2)-1：市民に愛される公民館づくり	23
(2) 施策目標 2－②：「放課後子ども教室推進事業を推進します。」	
指標 2－②(1)-1：放課後子ども教室の円滑な運営	23
指標 2－②(1)-2：コーディネーター及び指導員の育成と確保	23
指標 2－②(1)-3：放課後子ども教室の周知及び広報	24
(3) 施策目標 2－③：「学校支援地域本部事業の推進を図ります。」	
指標 2－③(1)-1：学校支援地域本部事業の推進	25
指標 2－③(1)-2：地域の人材活用体制の整備	25
指標 2－③(1)-3：学校支援地域本部事業の周知及び広報	25
(4) 施策目標 2－④：「図書館の機能を充実します。」	
指標 2－④(1)-1：利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実	27
指標 2－④(1)-2：子どもの強く生き抜く力を育むための読書活動の推進	27
指標 2－④(1)-3：図書館事業の周知	27
<u>施策 3 芸術文化活動の推進</u>	
(1) 施策目標 3－①：「芸術文化活動の推進」	
指標 3－①(1)-1：芸術文化活動への支援	29
指標 3－①(1)-2：質の高い自主文化事業等の実施	29
<u>施策 4 文化財の保護と継承</u>	
(1) 施策目標 4－①：「地域に残された文化財の保存と継承を推進します。」	
指標 4－①(1)：文化財の保存と継承	30
指標 4－②(1)：地域の歴史を学び親しめる施設を整備します。	30
<u>施策 5 スポーツ・レクリエーション活動の推進</u>	
(1) 施策目標 5－①：「幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。」	

指標 5－①(1)：運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大	31
指標 5－①(2)：田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進	31
指標 5－①(3)1：ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦	31
指標 5－②(1)：小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催	31
指標 5－③(1)：指導者対象の研修会、講習会の開催	31

3 教育振興推進プログラムダイジェストⅢ（教育総務課所管事業）

施策 6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

(1) 施策目標 6－①：「教育委員会の活性化を図ります。」	
指標 6－①(1)-1：教育委員会の透明性を高める取組	35
指標 6－①(1)-2：教育推進プログラムの重点化と自己評価	37
指標 6－①(1)-3：外部評価委員による評価及び公表	37
(2) 施策目標 6－②：「教育環境の整備・充実を進めます。」	
指標 6－②(1)-1：教育活動の場にふさわしい環境の整備	37
指標 6－②(1)-2：施設の耐震化の推進	37
指標 6－②(2)-1：児童生徒の安全な学校生活のための環境整備	38
指標 6－②(3)-1：児童生徒の通学支援	38
(3) 施策目標 6－③：「教育予算を効果的・効率的に執行します。」	
指標 6－③(1)-1：田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行	38
(4) 施策目標 6－④：「人材育成を推進します。」	
指標 6－④(1)-1：奨学制度の効果的な運営	38
指標 6－④(2)-1：海外留学支援制度の周知	38
(5) 施策目標 6－⑤：「教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。」	
指標 6－⑤(1)-1：学校規模の適正化推進	39

III 外部評価委員より

IV 結びに

I 事務事業の点検及び評価の目的、実施方針

1 目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、田村市教育委員会の事務事業に関する管理及び執行状況について、教育に関する学識経験者の知見を活用して点検及び評価を行い、報告書を作成して議会に提出するとともに公表する。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び执行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 実施方針

- (1) 田村市教育委員会は、田村市教育大綱に示された事務事業について点検・評価結果をまとめる。
- (2) 田村市教育委員会は、田村市教育委員会外部評価委員会設置要綱に基づき、教育に関する学識経験者3名に外部評価委員を委嘱し、田村市教育委員会外部評価委員会を設置する。（以下、外部評価委員会という）
- (3) 外部評価委員会は、田村市教育委員会が行う事務事業についての点検及び評価（内部評価）について、意見を述べ、評価を行う。（外部評価）
- (4) 田村市教育委員会は、内部評価並びに外部評価について報告書を作成し、議会に提出するとともに公表する。

～ II 主な施策と指標 ～

1 学校教育の充実

■は今年度重点施策

① 知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」を確立します。

(1) 学力向上の支援

- 活用力を育成する授業の充実
 - 主体的、対話的で深い学びのある授業
 - 「授業スタンダード」に基づく授業
 - 「活用力育成シート」の活用
- 学習規律、学習習慣の確立
 - 「家庭学習スタンダード」の活用
 - 学習規律の定着と学び方の指導
 - 小学生サマースクール（5学年）
- 保・幼・小・中の中連携充実
 - 幼小中連携ステップアップ支援事業
 - 幼小中連携推進会議の充実
 - 「たむらっ子はぐくみステップ」の実践
 - 小学校入門期指導の充実
- 学力実態調査の結果分析と活用
 - 田村市学力調査・入学生基礎学力調査
 - 全国学力・学習状況調査

(2) 英語が使える人材育成

- 国際社会に対応した教育の体系的な実践
 - 英語・外国語の授業の充実
 - 小学生英語活動集中プログラム
 - A.L.Tの効果的活用
 - 中学生夏季英語研修(English Camp)
 - 中学生海外派遣研修事業

④ 地域に開かれた学校教育を実現します。

(1) 求める子ども像の地域との共有

- 教育実践成果の積極的な公表
 - 教育実践報告会の開催
 - 教育委員会ホームページ等による広報
 - 市広報誌への掲載

(2) 開かれた学校づくり

- 教育活動の積極的な公開
 - 学校だよりの発行
 - ホームページ活用等による情報発信
 - 「学校へ行こう週間」の実施
- 学校評価による学校運営の充実
 - 学校評議員の委嘱と学校運営への参加
 - 学校評価公表、学校関係者評価の充実
- 学校運営協議会制度導入の調査研究

(3) 地域教育力の積極的活用

- 地域ボランティアの積極的活用
 - 学校支援地域本部事業との連携
 - 外部講師の活用

② 規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します。

(1) 道徳教育の充実

- 「田村っ子のルール10」の実践
- 「特別の教科 道徳」の時間の充実
 - 「考え、議論する」道徳の授業実践
 - 地域素材・人材の活用
 - 道徳教育推進委員会の充実

(2) 体力の向上の支援

- 体育の授業と体育的行事の充実
 - 《改訂》「運動身体づくりプログラム」の実践
 - 運動量の確保に向けた取組
- 田村市小学校水泳・陸上大会の実施

(3) 健康教育の推進

- 放射線・防災教育の充実
 - 外部講師を活用した授業
- 食育に関する授業の充実
 - 肥満・う蝕予防の推進
 - 栄養教諭による学校支援
- 健康教育に関する指導の充実
 - 薬物乱用防止教室等の開催
 - 歯科保健教室、思春期保健教室の開催

(4) 読書活動の推進

- 読書活動推進計画の作成と実践
 - 読書習慣づくり
 - 学校図書の整備・充実
 - 巡回学校司書の活用

(5) 特色ある教育の推進

- 田村市こども議会の開催
- 9年間を見通したキャリア教育
- 地域素材を生かした総合的な学習の時間等の授業

⑤ 学校支援の充実に努めます。

(1) 学校のニーズに対応した教育の推進

- 特別支援教育支援員の配置
- 複式学級指導支援員の配置
- 田村っ子の元気を支援する事業

(2) 学校の危機管理体制の充実

- アレルギー、感染症への対応
 - 給食食物アレルギー対応体制の確立
 - 感染症への対応体制の確立
- 非常時情報伝達体制整備
 - 緊急時メールシステム
 - 災害時対応マニュアルの整備と周知

③ 一人一人のニーズに応じた教育を推進します。

(1) 特別支援教育の充実

- 特別支援教育支援員の配置と研修
- 通級指導教室の啓発
- 「サボネット田村」運営の充実
 - サボネットファイルの活用
 - 研修会や啓発セミナー等の実施
- 就学前児への早期相談
 - こども未来課との連携強化
 - 「すぐすぐ教室」との連携

(2) 学校への適応指導の充実（いじめ・不登校防止等への対策）

- 適応指導の充実
 - 学級生活満足度調査（Q-U調査）の実施と活用（小1～中3）
 - 小・小連携、小・中連携交流事業
 - 異校種間の接続時における指導の工夫
- いじめ、不登校への迅速で適切な対応
 - 市「いじめ防止等に関する条例」に基づく体制の整備
 - 心の教室相談員の中学校配置と小学校への派遣
 - SC及びSSW派遣事業の活用
 - 「ほっとスペース」との連携

⑥ 教職員の資質の向上を図ります。

(1) 教職員の指導力の向上

- 計画訪問等による授業力向上の支援
 - 計画訪問・要請訪問・指定訪問
 - 校内研修等及び日常的な授業改善への支援（学校支援指導主事）
- 学力向上推進会議の充実
 - 学力向上推進委員・学校教育指導委員の研修
 - 市全体・中学校区単位の授業研究会
 - 「活用力育成シート」活用方法の研究
- 各種研修会の充実
 - 講師研修
 - 小・中英語担当者とA.L.Tの合同研修
 - いじめ・不登校対策研修会
 - 養護教諭研修会
 - 幼稚園教諭等研修会
 - 情報モラル指導者研修会

(2) 服務倫理の確立と働き方改革

- 教職員の不祥事根絶と勤務の適正化
 - 校内相談体制の構築
 - 校内服務倫理委員会の充実
 - 教職員の勤務実態把握と適正化支援

[田村市の教育10のキーワード]

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| ①安全・安心（危機管理） | ⑥基礎・基本（学力向上の基盤） |
| ②共生と連携と評価の時代（教育の道しるべ） | ⑦当たり前のことを行なう（行動基準） |
| ③実践と点検・検証（教育活動の原理原則） | ⑧感動と共感と感化（情操の育成） |
| ④真実は相手が理解してはじめて真実になる（説明責任・結果責任） | ⑨愛郷心（語り継ぐ田村の教えと郷土への誇り） |
| ⑤心身を養えば学力は伸びる（知・徳・体のとらえ） | ⑩市民参加の教育づくり（地域連携の強化と地域教育力の向上） |

参考：施策指標の達成状況

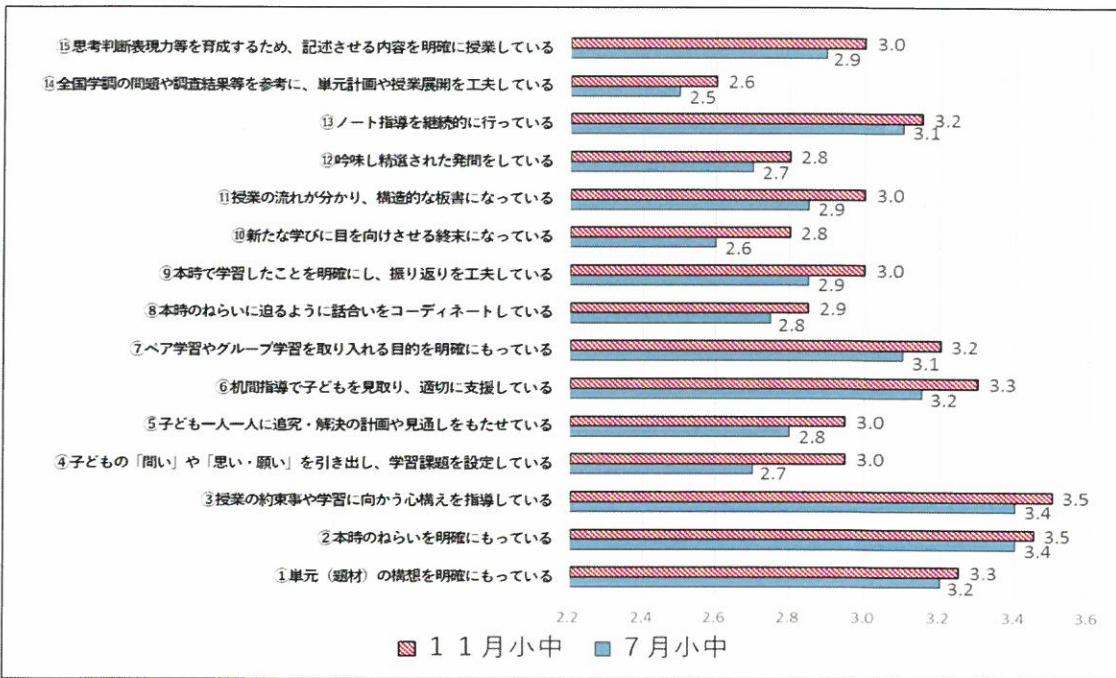
【指標1-①(1)】学力向上の支援

1. 「授業スタンダード」アンケート調査結果（田村市立小中学校）

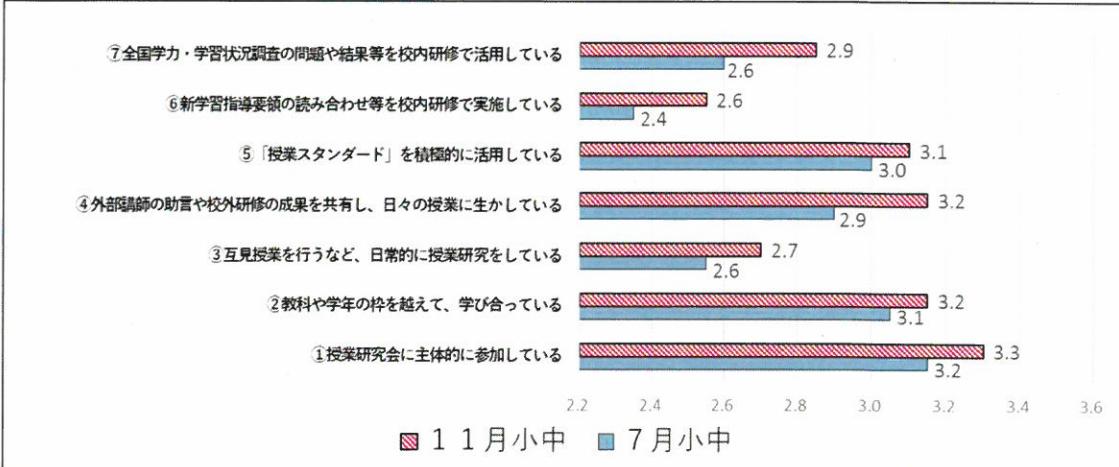
平成30年7月、平成31年1月実施

4：よくできている 3：できている 2：あまりできていない 1：全くできていない

<授業の充実のために（田村市内小中学校平均）>



<校内研修の活性化のために（田村市内小中学校平均）>



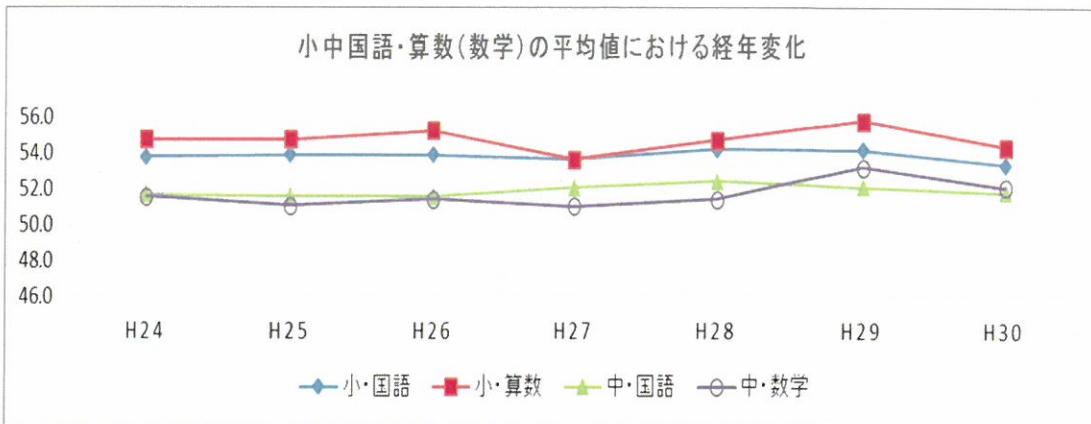
（考 察）

- 平成31年1月調査においては、前年7月調査に比較し、「授業の充実のために」15項目、「校内研修の活性化のために」7項目全てにおいて向上が図られ、「授業スタンダード」を意識した授業に努めていることがわかる。
- 子どもたち一人一人が主体的に課題に向き合い、よさを發揮しながら課題を解決し、自信を深め、新たな課題を見出していくなかで、「確かな学力」を身に付けていくことができるよう、授業力の向上に努めていく必要がある。

2. 学力の定着度 「田村市学力実態調査」

(教研式全国標準学力検査) (小1～中2、1月実施)

(1) 平均偏差値の推移



前年度比較

【小学校】 国語－0.9 算数－1.5 【中学校】 国語－0.3 数学－1.1

(2) 目標達成率 (平均偏差値より)

① 平成33年度達成目標値

小学校 国語・算数 56.5

中学校 国語・数学 54

② 平成30年度目標達成率

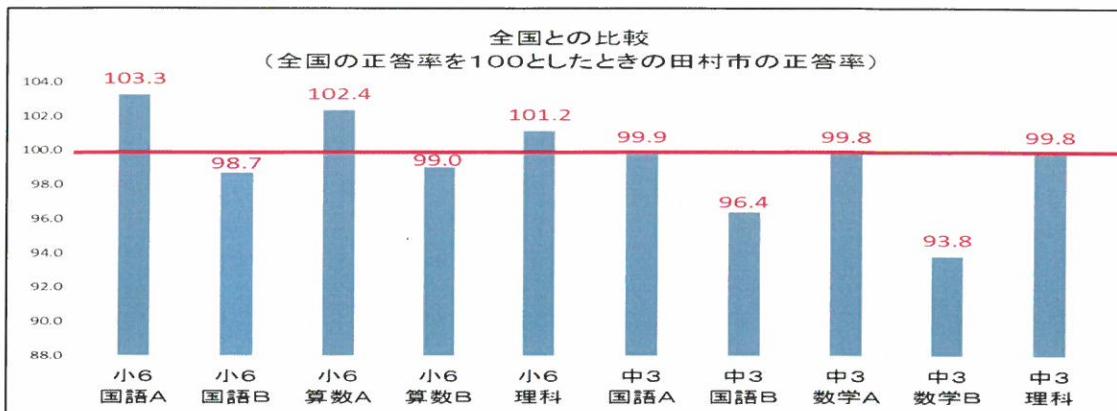
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小・平均	中1	中2	中・平均
国語	52.6	54.4	53.8	52.7	53.1	53.4	53.3	51.2	52.4	51.8
達成率 94.4%										
算数 数学	54.1	55.5	52.8	53.2	55.6	54.8	54.3	52.7	51.5	52.1
達成率 96.2%										

※ 達成率は平成33年度目標 小学校(56.5) 中学校(54.0)に対する達成率を示す。

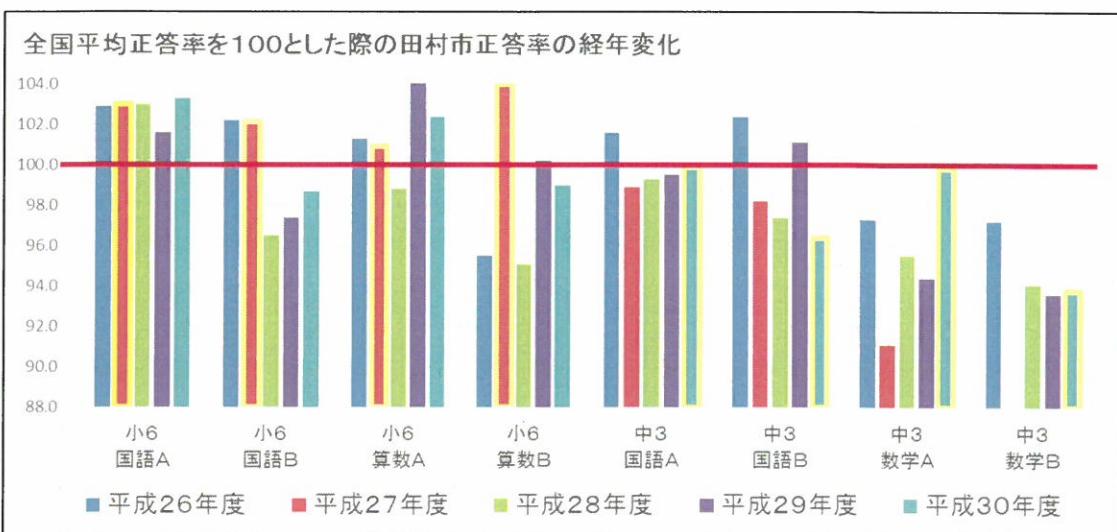
- 全国の平均正答率を 100 とした時の各教科における観点別集計では、小学校が、全学年において国語 4 観点、算数 3 観点全てにおいて全国比 100 を超えている。
- 国語 4 観点、社会・数学・理科・英語は各 3 観点となっている中学校においても、国語(1年「読む能力」97、2年「話す・聞く能力」99)、社会(2年「資料活用の能力」97)、英語(1年「言語や文化についての知識理解」98)以外は、全国比 100 を超えている。
- 知能と学力の相関関係では、小学校(3～6年)におけるアンダーアチーバー(知的水準から期待される学力より、はるかに低い学力を示す児童・生徒)の平均が 7%に対し、中学校(1・2年)の平均は 15%になっている。

3. 学力の定着度 「全国学力学習状況調査（小6・中3、月実施）

（1）平均正答率による全国との比較



（2）全国平均正答率を100とした際の田村市経年比較



〈考 察〉

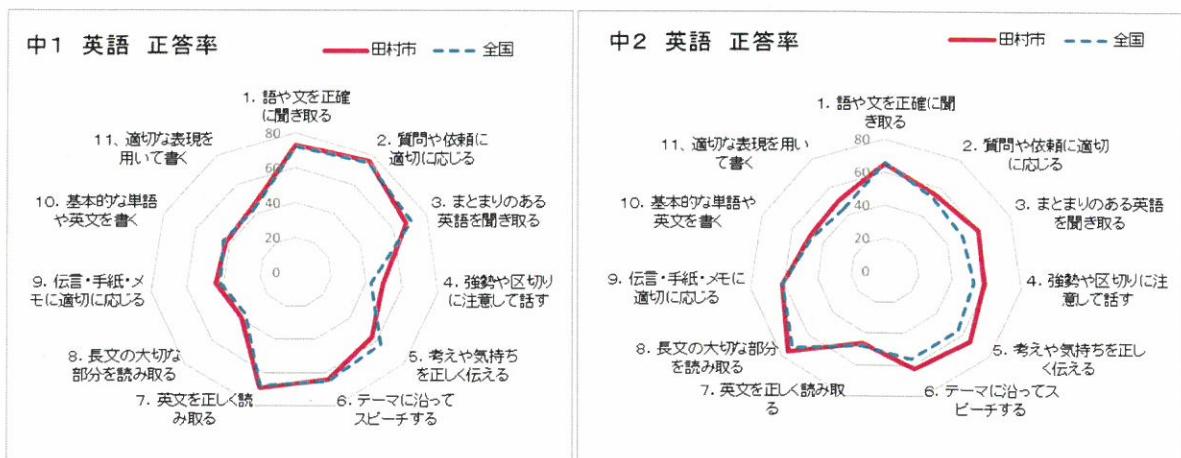
- 各教科の正答率は、県や全国の平均正答率とほぼ同様の傾向を示し、各教科における「B：活用」が課題となっている。
- 全国の平均正答率を100とした際の経年比較では、国語A、国語B、中学国語A、数学Aにおいて改善が見られた。
- 中学校の数学では「A知識・理解」において大きく改善された一方、「活用力」の育成に依然として課題が残っている。
- 今後、知識・技能のより確実な習得、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等の育成、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・対話的に取り組む態度を育てるため、教員一人一人の指導力の向上が必要である。
- 特に、思考力・判断力・表現力等を育成する過程で、基礎的な知識・技能の習熟を図る授業のあり方や「わかる・できる授業」の実現に向けた授業改善に一層取り組む必要がある。

【指標1-①(2)】英語が使える人材育成

1. 外国語指導助手の派遣実績（単位：回）

学校名	H3.0	学校名	H3.0
滝根小	42	滝根中	158
大越小	40	大越中	160
都路小	36	都路中	100
関本小	28	常葉中	165
常葉小	35	船引南中	100
西向小	36	船引中	516
芦沢小	30	—	—
船引南小	35	合計	1199
船引小	80	英語活動集中プログラム	
美山小	40	10月11日 常葉・都路中学校区小学校 (常葉公民館)	
緑小	22	船引南中学校区小学校 (芦沢小学校)	
瀬川小	22	10月18日 船引中学校区 (船引小学校)	
要田小	35	10月25日 滝根・大越中学校小学校 (大越小学校)	
合計	481		

2. 田村市学力実態調査における全国との比較



＜考 察＞

○ 田村市学力実態調査においては、中学校英語

における各領域において、ほぼすべての項目において全国平均を超える結果となっている。

小・中学校における英語指導助手のチームティーチングによる授業が充実してきている結果であると考えられる。

○ 小学校1年生から、英語指導助手とふれあいながら外国語にふれる活動を実施することにより、英語でのコミュニケーションの楽しさを味わう活動の充実が図られている。



【指標1－②（1）】道徳教育の充実

道徳教育指導状況 [福島県道徳教育実施状況調査]

平成31年 1月実施

〔H30指導の重点1〕実効性ある指導計画等の作成と学校全体の推進体制の確立

1 道徳教育の全体計画への「いじめ防止対策推進法」の位置付けについて

全体計画への「いじめ防止対策推進法」の位置付け（明示）	小学校数	中学校数
① 位置付け（明示し）ている。	13	5
② 位置付け（明示し）ていない。	0	1

2 道徳教育全体計画の「別葉」について

（1）作成の有無について

「別葉」の作成状況	小学校数	中学校数
① 作成している。	12	6
② 今年度中に作成する予定である。	1	0

（2）活用の有無について

「別葉」の活用状況	小学校数	中学校数
① 成果や課題などを記入して活用している	3	0
② 記入はしていないが確認をするなどして活用している。	9	6
③ 活用していない。	1	0

3 教科書教材以外の副教材の活用について

（1）副教材の年間指導計画への位置付けについて

年間指導計画への位置付け	小学校数	中学校数
① 各学年において、1～3時間位置付けている。	10	4
② 各学年において、4～6時間を位置付けている。	2	1
③ 各学年において、7時間以上を位置付けている。	0	1
④ 位置付けていない（今年度は教科書を使用することとした）	1	0

（2）ふくしま道徳教育資料集の活用について

年間指導計画への位置付け	小学校数	中学校数
① 各学年において、概ね1時間を位置付けている。	4	4
② 各学年において、概ね2時間を位置付けている。	7	0
③ 各学年において、概ね3時間以上を位置付けている。	2	2

〔H30指導の重点2〕多様な指導方法・指導方法の工夫及び家庭や地域との連携

4 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた道徳科の授業改善について

（1）児童生徒の心に響く多様な指導方法への取組について

多様な指導方法への取り組みについて	小学校数	中学校数
① 教員は児童生徒の心に響く多様な指導方法を理解し、工夫して実践している。	13	4
② 教員は児童生徒の心に響く多様な多様な指導方法を概ね理解しているが実践できていない。	0	1
③ 教員の多様な指導方法への理解や取り組みはまだ不十分である。	0	1

（2）教科化（授業改善、評価等）を踏まえた校内研修の取組について

校内研修への取り組みについて	小学校数	中学校数
① 授業研究や評価の事例検討等の校内研修を行った。	12	6
② 授業研究や評価の事例検討等の校内研修を行っていない。	1	0

5 道徳の授業参観（公開授業・保護者向け授業参観）について

授業参観の実施状況	小学校数	中学校数
① 全学級実施した。	7	1
② 全学級ではないが実施した。（1学級のみの実施も含む）	5	2
③ 今年度中に実施する予定である。	1	3
④ 実施する予定はない。	0	0

6 家庭や地域社会等との連携による道徳の指導について

連携による道徳の指導の実施状況	小学校数	中学校数
① 保護者が授業に参加（参観のみは除く）した。 (1学級のみの実施も含む)	6	0
② 地域の人々が授業に参加（参観のみは除く）した。 (1学級のみの実施も含む)	0	0
③ 保護者や地域の人々以外の方をゲストティーチャーとして 招き実施した。（1学級のみの実施も含む）	1	3
④ ①～③などについて実施する予定はない。	1	1
⑤ ホームページや学級、学校便りで発信した。	11	3

〔H30指導の重点3〕（小学校）児童生徒の成長を受け止めて認め、励ます評価

7 【小学校のみ回答】道徳科の評価への取組について

（1）通知票への記載等について

道徳科の評価	小学校数	中学校数
① 通知表に、通年1回記載した。	6	
② 通知表に、通年2回記載した。	7	
③ 通知表に、通年3回記載した。	0	
④ 通知表には記載していない。	0	
⑤ 保護者面談、個人面談等を通じて、本人や保護者に伝える機会をもった。	0	
⑥ その他（内容： ）	0	

（2）評価のための資料を累積する方法について

道徳科の評価	小学校数	中学校数
① ワークシートを活用して累積している。	10	
② ノートを活用して累積している。	11	
③ 座席表を活用して累積している。	2	
④ 教科書の書き込み欄を活用して累積している。	7	
⑤ 資料の累積を行っていない。	0	
⑥ その他（内容：ポートフォリオ）	1	

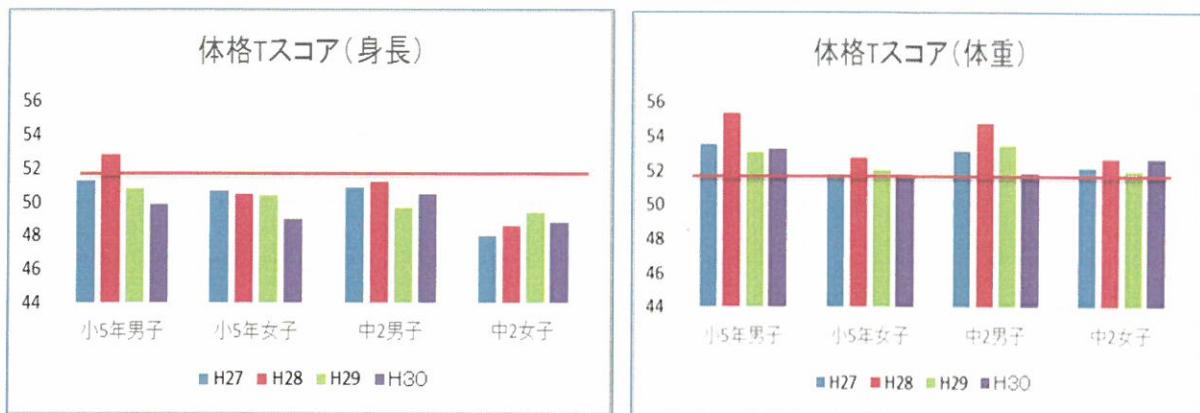
〈考察〉

- 道徳教育全体計画における「いじめ防止基本方針」の位置付け及び道徳教育全体計画別葉(指導内容についての他領域との関連表)は、ほぼ全ての学校で作成している。改善を加えながら効果的に活用するよう指導助言をしていく。
- 保護者や地域に対し、道徳教育の重要性及び学校の取組の理解を得るため、授業参観等での道徳の時間の公開を積極的に行っている。
- 平成30年度（小学校35時間）及び平成31年度（中学校）からの道徳の教科化に向けて、指導方法や評価について、各学校において研修を進めている。市教委としても今後とも情報提供及び指導助言をしていく。

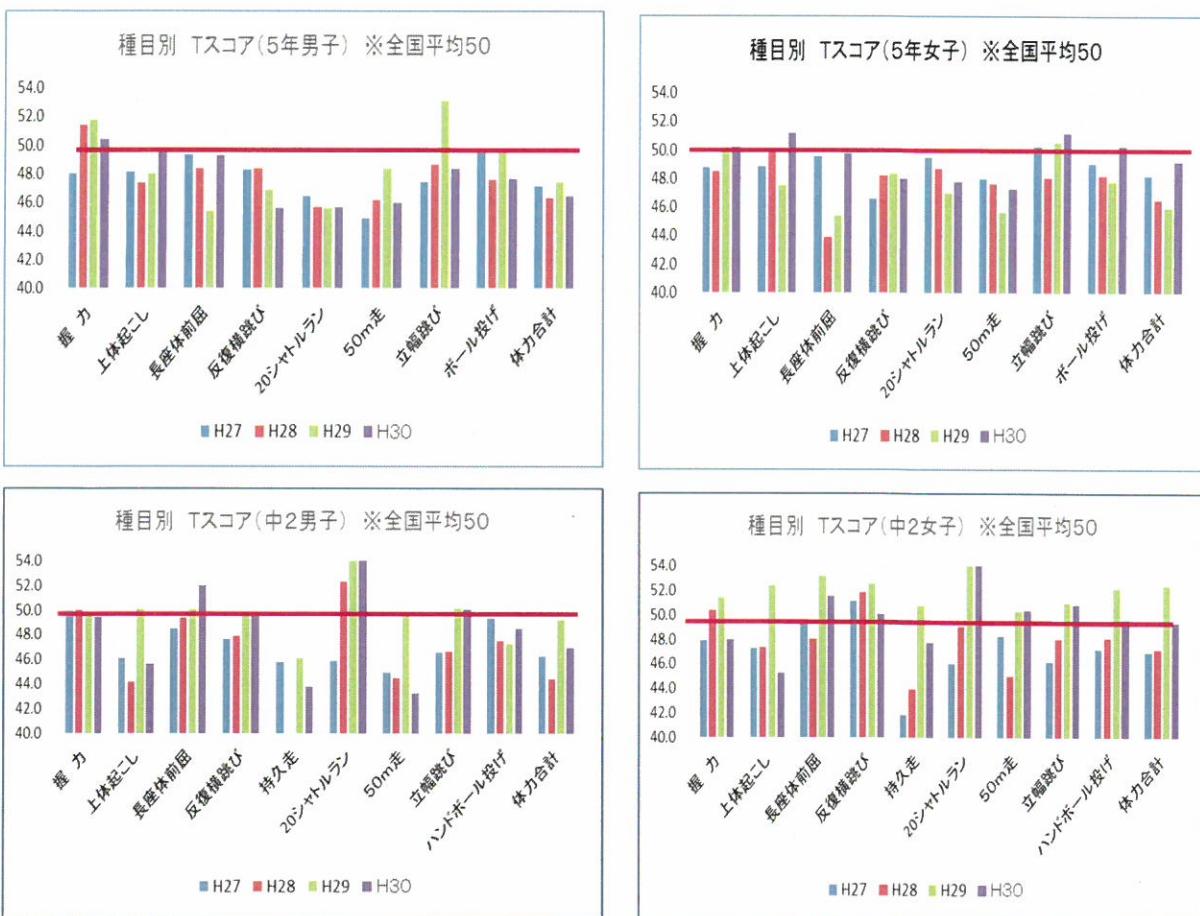
【指標1－②（2）】体力の向上の支援

1. 全国体力・運動能力調査における田村市の状況（全国平均値＝50）

（1）体格面



（2）運動能力面



（考察）

- 小学生では、男女とも体重が全国平均を上回っているものの、運動能力面においては全国比較で低い要素が多い。中学生でも男女ともに体重が全国平均を上回っている。運動能力面については全国平均に近い種目が多くなっている。年度毎の課題は多少異なるものの、小学校・中学校友に筋力・筋持久力、全身持久力、スピード、筋パワーなどバランスよく向上させることが必要である。

- 幼児期から小学校中学年においては、運動に対する二極化を防ぐこと、幼児期には、多様な動きを経験できるような遊びを工夫し、発達の特性に応じた遊びを経験させることが必要である。学童期においては、自己の体力・運動能力や健康への関心を高め、自ら進んで運動に取り組むことができるよう、「運動身体づくりプログラム」を活用し、動きたい体・動ける体づくりをさらに推進すること、学校行事等と関連させながら目標をもたせ、日常的に体を動かす機会を確保していくことが必要である。
- 小学校高学年以降においては、短距離走やハードル走などにおいて、スピードや筋パワーを高める運動を工夫して取り入れるとともに、マラソン、水泳など全身を使って長い時間運動する機会を設けて、心肺機能を高めていくことを、体育の授業や部活動に取り入れるようにしたい。

2. 各校の体力向上推進計画の実施状況

運動身体づくりプログラムの実施（小学校）	小学校13校 全クラスにおいて実施 ・ほぼ毎時間実施・・・実施率96.8%
業間等を利用した運動の機会の確保（小学校）	・朝（業間）マラソン・運動タイムの実施 ・陸上競技練習の工夫
部活動の改善と特設部の活動の工夫（中学校）	・特設陸上部と駅伝部の活動時間と参加人数の確保 ・部活動でのランニングや体力（体幹）トレーニングの取組
その他の体力向上の取組	・体育専門アドバイザーの活用 ・外部講師（陸上・ダンス）の活用 ・スポーツ笑顔の教室の活用 ・運動の楽しさを味わわせる体育授業の工夫 ・体育の合同授業とTTによる指導 ・体育行事での個人目標の設定と練習機会の確保 ・体力・運動能力調査での個人結果の分析と活用 ・対外大会への積極的な参加奨励 ・指導力向上のための校内研修と校外研修会への参加 ・肥満傾向改善のための食育の実践

〈考察〉

- 小学校では、日課表に体力づくりの時間を設け、体育の日常化に取り組んだり、外部講師の活用や体育授業のTTなど、効果的な指導と指導力向上の取組が実施された。
- 中学校では、特設陸上部や駅伝部の練習に年間をとおして取り組んだり、選手以外の練習参加を奨励したりして、学校全体の体力向上に意識して取り組んでいた。
- 第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会C男子（中学2年生以下）走幅跳において、船引中学校1年生徒が優勝（記録6m20cm）を果たした。昨年度の第33回全国小学生陸上競技交流大会に引き続きの優勝である。

3. 小学校水泳大会・陸上大会の参加者数

大会名	実施日	会 場	参加者数
第13回市小学校水泳大会	<予定> 7月24日(火)	大越つつじヶ丘プール 船引小学校プール	
大14回市小学校陸上競技大会	9月13日(木)	田村市陸上競技場	6年生 299名 ※川内小 9名含む

〈考察〉

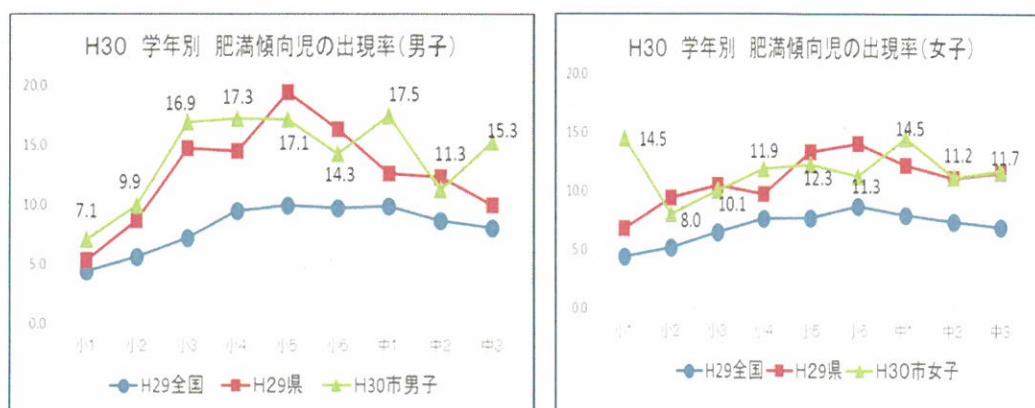
- 小学校水泳大会、小学校陸上競技大会への参加に向けて、各校とも個人に目標をもたせたり、計画的に練習に取り組ませたりするなど、体力向上の機会として大会を活用することができた。
- 7月24日に予定されていた水泳大会は、県内における連日の熱中症による事故の報道や、気象庁による気温が高い状態が続く恐れがあるとの発表から、児童の安全確保を最優先し、中止とした。
- 陸上大会では、多くの児童が自己記録を更新し、自分の設定した目標を達成することができた。

【指標1-②(3)】健康教育の推進

1. 放射線教育の実施状況

	学校数	教科領域	内 容 等
小学校	13	学級活動 理科	放射線って何だろう 放射線から身を守るために 環境創造センター見学(5年生)
中学校	6	学級活動 理科	科学技術と人間、放射線と放射能、内部被曝と外部被曝、半減期と放射線量、食物と放射線、放射線の人体への影響、除染、放射線と未来等

2. 肥満傾向児の出現率



〈考察〉

- 各小中学校では、食育推進コーディネーターを中心に、毎日の給食指導を生かした食育や、養護教諭や給食センター栄養教諭・栄養士による「食に関する指導」などをとおして、「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」を育成している。
- 県の食育事業である「食育専門家派遣事業」では、食に関する集団指導や個別指導、児童や保護者への講話など学校の実態に応じた学習をすることができた。さらに、県産食材を活用し、栄養バランスのとれた献立を作成する「ふくしまっ子 ごはんコンテスト」には、市内小・中学校 17 校から 551 点（昨年比 70 点増）の応募があり、船引小学校 6 年生、都路中学校 2 年生が優秀賞（県 2 位相当）、大越中学校、常葉中学校が学校賞を受賞した。
- 市児童生徒の健康課題である「う歯罹患率」については、平成 29 年 1 月から、幼稚園と小学校においてフッ化物洗口事業を開始するとともに、歯科衛生士による歯科指導、家庭と連携したう歯治療の推進等により改善に努めている。もう一つの課題である「肥満傾向児出現率」については、全体的に県平均よりも高く、食育の面からも、望ましい食習慣、運動を含めた生活習慣の改善にアプローチすることが必要である。

3. 食育に関する栄養教諭・栄養士の授業支援状況

対 象 (校種)	回 数
・市内幼稚園「食に関する指導」	2回
・市内小学校「食に関する指導」	90回
・市内中学校「食に関する指導」	12回
・保護者「食育講話・試食会説明」	10回

4. 薬物乱用防止教室及び思春期保健教室、歯科保健教室実施状況

各種教育	内 容	実施校
薬物乱用防止教室	◇外部講師活用	小学校 11 校・中学校 5 校
思春期保健教室	◇外部講師活用	小学校 13 校・中学校 6 校
歯科保健教室	◇外部講師活用	小学校 13 校・中学校 6 校

【指標 1-②(4)】 読書活動の推進

1 福島県読書に関する調査 (小1～中3 11月調査)

(1) 学校図書館の利用促進(貸出目標)目標値及び参考値としての平成29・30年度読書に関する調査結果

項目	目標値 (平成31年度)	参考数値 (1か月の読書冊数)	
		平成29年11月	平成30年11月
学校図書館の 利用促進 (貸 出目標)	小学校低学年	年40冊以上/人	19.0冊/人
	小学校中学年	年30冊以上/人	12.4冊/人
	小学校高学年	年20冊以上/人	8.8冊/人
	中学生	年10冊以上/人	2.5冊/人
平均		10.7冊/人	10.4冊/人

(一か月に児童生徒一人当たりが読んだ本の冊数市平均値)

(2) 読書に関する調査結果経年変化



※各学校における小学校1～6年生、中学校1～3年生の平均を算出

〈考 察〉

- 各学校において朝の読書や親子読書、家庭読書の日等の実践により、本を読む機会を意図的に設定し、読書推進を進めている。
- 小中学生一人あたりの一か月平均冊数は10.4冊である。これを1年間の読書冊数に換算すると125冊となる。
- 国語における単元を貫く言語活動との関連から並行読書による比べ読みやブックトーク、さらには来年度から全中学校で行うビブリオバトル等、多様な読書活動を取り入れた読書指導を展開することで、読書の質の向上や興味関心の醸成に努めている。
- 学校図書支援スタッフを2名委託し派遣することで、各学校における図書室の整備や児童生徒への読み聞かせ、ブックトーク等を行っている。今後も学校図書館の活用促進及び読書活動の推進に向けて積極的に活用していく。

参考：施策指標の達成状況

【指標 1－③（1）】特別支援教育の充実

1. 特別支援教育にかかる相談、訪問等による支援

（1）特別支援学校のセンター的機能の活用状況

切れ目のない支援体制整備事業の活用

	小学校	中学校	合計
「相談支援」	7校 20件	2校 2件	9校 22件
「研修支援」	2校 2件	0件	2件（市教委研修含む）

（2）特別支援啓発セミナーの開催

講師 一般社団法人 発達障がいファミリーサポート Marble

代表理事 国沢真弓

演題 「気になる子」とその家族を支えるために…

—発達障がいの理解と支え—

参加者 教員 294名（市内幼稚園・こども園、小・中学校）
市内外施設 42名
一般・保護者 48名 合計 384名

（3）特別支援に関する研修会等の開催

- ・特別支援教育支援員研修会 3回（授業研究会含む）
- ・心の教室相談員研修会 3回
- ・田村市特別支援教育推進連絡協議会（サポネット田村） 3回

〈考察〉

- 切れ目のない支援体制整備事業を活用し、「相談支援」に関しては、市内小学校7校20件、中学校2校2件、「研修支援」においては、2回の要請を行い、特別な支援を必要とする児童生徒への適切な支援について指導助言をいただいた。
- たむら支援学校のセンター的機能により、専門的な知識や具体的な児童生徒への支援の方法の指導を受ける機会がより身近になったと感じることができる。今後もより積極的に「相談支援」「研修支援」を活用していくよう周知していく。
- 市内幼稚園・こども園、小・中学校、高等学校の教職員、支援員の研修や保護者・地域住民等への啓発の機会として開催した特別支援教育啓発セミナーでは、市内外から参加があった。特別支援教育への理解を深めるとともに、支援のあり方について具体的に学ぶ機会となった。
- 就学指導については、年度当初からの早めの相談が増えている。来庁などによる保護者との就学相談や学校見学などの訪問を含め、就学に対する保護者の意識が高くなっている。保健課の乳幼児育成指導事業「すくすく教室」との連携により、早期からの就学相談の体制が確立したことによるものと考えられる。

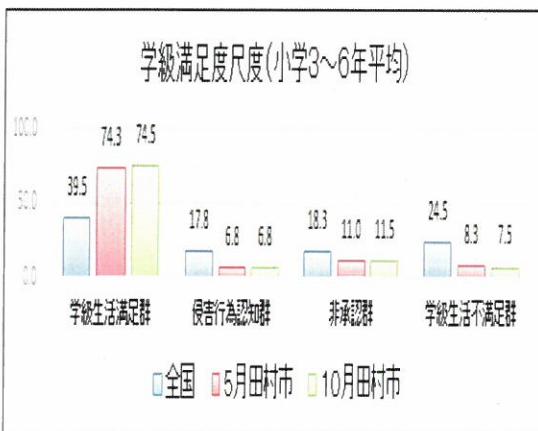
- 今後も、関係機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携するとともに、相談がより効果的になるように教員研修も充実させていく必要がある。

【指標1-③(2)】学校への適応指導の充実

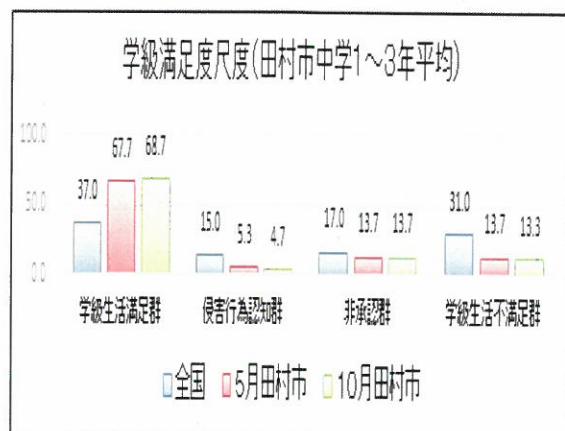
1. Q-U検査による学級満足度尺度及び学校生活意欲プロフィール

(1) 学級満足度尺度（5月→10月の変容）

①小学校 調査結果

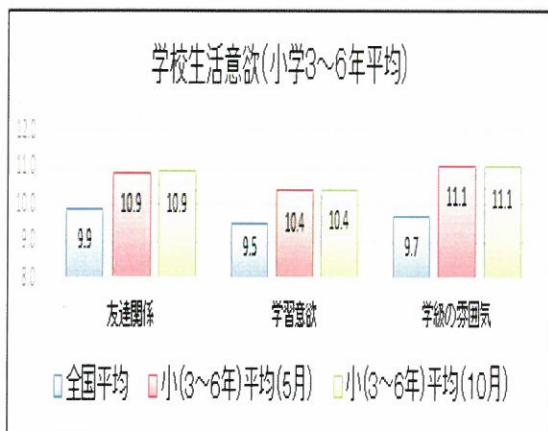


②中学校 調査結果

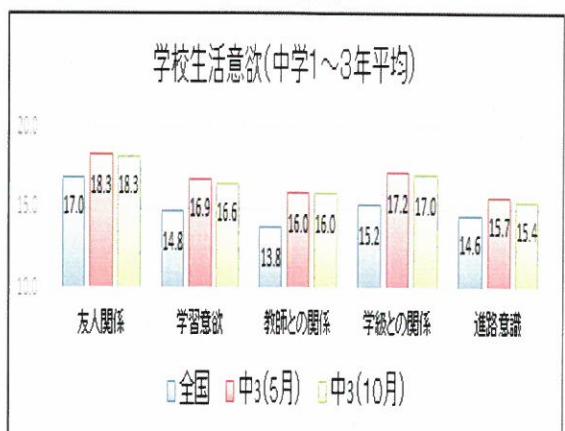


(2) 学校生活意欲（5月→10月の変容）

①小学校 調査結果



②中学校 調査結果



〈考察〉

- 市内の小・中学校の学級生活への満足度は、第1回目の検査（5月）では小学校3年生から中学校3年生までの平均が71.0%であった。第2回目の検査（10月）では、平均で71.6%と満足度が上がっている。いずれも全国平均と比較して30ポイント以上高い。
- 「学校生活意欲」についても、市内の小・中学校は全国平均よりも高い。
- 児童生徒の学校生活が充実できるよう、QU検査を活用したPDCAサイクルを機能させる（P：学級集団の分析、支援計画の作成→D：支援策の実施、授業改善→C：学級集団の分析、支援策の効果検証→A：再

に協力し合える集団づくりに努めていくことが必要である。

2. 教育相談体制における S C, 心の教室相談員等の派遣実績

(1)緊急スクールカウンセラー派遣実績

派遣小中学校	派遣日数	派遣時間	相談件数
滝根小学校	30	180	531
大越小学校	30	180	70
都路小学校	30	180	60
常葉小学校	30	180	53
船引小学校	30	180	221
滝根中学校	30	180	84
大越中学校	30	180	106
都路中学校	30	180	108
常葉中学校	30	180	207
船引南中学校	30	180	93
船引中学校	30	180	267

※相談件数は1月末現在

(2)心の教室相談員派遣実績

中学校	派遣日数	派遣時間	小学校	派遣日数	派遣時間
滝根中学校	51	300	滝根小	3	12
大越中学校	76	300	大越小	3	12
都路中学校	76	300	都路小	3	12
常葉中学校	92	350	関本小、常葉小、西向小	9	36
船引南中学校	64	300	芦沢小、船引南小、要田小	9	36
船引中学校	141	800	船引小、美山小、縁小、瀬川小	12	48

〈考察〉

- スクールカウンセラーが配置されている小・中学校では、不安や悩みを抱える児童生徒に対し、一人ひとりに寄り添って相談を実施し、担任等と連携して不登校の予防や学校不適応の解消に貢献した。また、校内の生徒指導委員会に加わり、専門的な立場から、児童生徒理解や適切な支援の仕方についてアドバイスをいただいている。また、不安を抱える保護者についても、丁寧に対応していただき、学校との信頼関係を深めることができている。
- 心の教室相談員は、主に中学校において、学校生活や友人関係に不安を抱える生徒、相談室登校の生徒等に対し、信頼関係を築きながら適切に関わり、不安や悩みの解消に努めている。また、不登校傾向の生徒に対しては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を図りながら、担任を支えてチーム支援に努めている。小学校においては、中学進学への不安や悩み等の相談や、小学校教員との情報交換を通して、事前に支援の必要な児童を把握して、中1ギャップの解消を図っている。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員の役割を学校全体で共通理解し、それぞれの立場でどのような支援ができるか、ケース毎に明らかにしていくことが必要である。

【指標1－④（2）】開かれた学校づくり

学校関係者評価の実施状況

幼稚園	7園	小学校	13校	中学校	6校
-----	----	-----	-----	-----	----

1 自己評価の実施状況

(1) 自己評価を実施した

幼稚園 7園 小学校 13校 中学校 6校 100%

(2) 自己評価報告書の設置者への提出

幼稚園 7園 小学校 13校 中学校 6校 100%

(3) 自己評価結果の公表方法（複数実施を含む）※全ての幼稚園・学校が公表

① ホームページ 小学校 2校

② 学校便り等 幼稚園 5園 小学校 11校 中学校 4校

③ 保護者懇談会等での説明 幼稚園 3園 小学校 10校 中学校 4校

④ 地域住民への周知 幼稚園 1園 小学校 7校

2 学校関係者評価の実施状況

※ 学校関係者：保護者を含む学校関係者

(1) 学校関係者評価を実施した

幼稚園 7園 小学校 13校 中学校 6校 100%

(2) 学校関係者評価の設置者への報告

幼稚園 7園 小学校 13校 中学校 6校 100%

(3) 学校関係者評価の公表

幼稚園 7園 小学校 12校 中学校 5校 92%

3 学校関係者評価結果の公表方法（複数実施を含む）※全ての幼稚園・学校が公表

① ホームページ 小学校 3校

② 学校便り等 幼稚園 5園 小学校 8校 中学校 3校

③ 保護者懇談会等での説明 幼稚園 3園 小学校 8校 中学校 2校

④ 地域住民への周知 幼稚園 1園 小学校 4校 中学校 2校

（考察）

- 全ての学校において、自己評価、学校関係者評価等の学校評価を実施しており、公表についても地域住民に対して、回覧等により公表している学校が増えてきている。
- 学校評価結果を受けて、課題と改善策等について P T A 役員、学校評議員等と共にし、学校運営に役立てている状況が見られ、学校評価の目的や機能が生かされてきている。
- 今後第三者評価の実施やコミュニティ・スクール導入に向けた、評価の在り方について検討を進めていく。

【指標1－⑤】 学校支援の充実

1 特別支援教育支援員の配置状況

滝根小学校	2名	滝根幼稚園	1名
大越小学校	2名	大越こども園	1名
常葉小学校	1名	常葉幼稚園	1名
西向小学校	1名	船引南幼稚園	1名
芦沢小学校	1名	合計	21名
船引小学校	6名		
瀬川小学校	1名		
滝根中学校	1名		
船引中学校	2名		

2 複式学級指導支援員の配置状況

(1) 複式学級の状況 全体で10学級

2、3年複式…3学級

3、4年複式…3学級

4、5年複式…2学級

5、6年複式…2学級

※ 県からの補正教員が5名配置

(2) 市における複式学級指導支援員の配置

瀬川小学校	1名
緑小学校	1名

〈考察〉

- 特別支援教育支援員については、特別な支援を必要とする児童生徒の状況に応じて、配置を進めている。特に、普通学級に在籍し、特別支援学級が適当であると判断された児童や病弱、医師から医療的なケアを受けている児童を重点的に支援している。
- 教育支援委員会に判断を依頼する件数が増えている傾向もあることから今後も、児童生徒の具体的な状況により、適正な配置に努めていく。
- 本市において、今年度7学校10学級の複式学級がある。その中の5校は、県からの補正教員が配置されている。市教育委員会では、補正教員のない学校及び複数の複式学級のある学校への配置をしている。
- 必要学級数に対し、教員が不足しているため、人材確保が課題となっている。

【指標1－⑥（1）】教職員の指導力の向上

1. 計画訪問等の実施状況

	計画訪問				要請訪問				個別支援訪問				合 計
	幼 稚 園	小 学 校	中 学 校	小 計	幼 稚 園	小 学 校	中 学 校	小 計	幼 稚 園	小 学 校	中 学 校	小 計	
4月				0				0					0
5月	5			5				0		13	6	19	24
6月	12	10		22				0		27	12	39	49
7月			27	27				0		37	11	48	75
8月				0				0		4		4	4
9月	6			6		1		1		21	4	25	26
10月	10			10		1		1		25	2	27	35
11月		23		23	2	6		8		19	5	24	55
12月				0				0	2	15	7	24	24
1月				0				0		6	3	9	9
2月				0				0		5	2	7	7
3月				0				0					0
合計	33	33	27	93	2	8	0	10	2	172	52	226	329

(訪問者延べ人数)

※1 「計画訪問」は、管理運営に関する訪問または教育指導に関する訪問で、市教委が計画し、県中教育事務所に管理主事・指導主事等の派遣要請等を行って実施しているものである。

※2 「要請訪問」は、校内授業研究会、小・中連携授業研究会、小教研、中教研等の要請によるものである。

※3 「個別支援訪問」は、教育長訪問や人事評価制度に基づく訪問、または各学校の学力向上や生徒指導、障がいを持つ児童生徒のニーズに応じた指導方法、教育相談などについて該当校と改善に向けた協議等を行うものである。

〈考察〉

- 計画訪問では、市教育大綱（振興推進プログラム）の進捗状況を把握するとともに、各学校の教育活動及び施設設備等の管理全般にわたって改善・努力を要する事項等について協議及び助言・指導を行った。計画訪問を実施することで全職員により教育活動を全般にわたって見直す機会になるなど適切な学校運営を支援することができた。
- 要請訪問では、校内授業研究会や小・中連携授業研究会を中心に授業改善・学力向上へつながる積極的な支援ができた。
- 個別支援訪問では、学校がかかえている課題等の話し合いの中で、実態に応じた具体的な対応等について助言してきた。また、学力向上に関しては、学校支援指導主事の派遣により、算数・数学、外国語活動・英語の授業改善に向けて、教員個々の指導法のあり方について、複数回にわたり継続的に指導を行うことができた。

【指標1-⑥(2)】服務倫理の確立と働き方改革

1 田村市立小・中学校の服務倫理委員会の開催状況

開催方法	職員会議に合わせて開催	14校(74%)
	年間計画に位置付けて開催	5校(26%)

定期開催の回数	6回	7回	11回	12回	13回	14回	平均
	1校	1校		2校	13校	1校	11.5回

※ 懲戒処分の通知、新聞報道等があった場合については、各校ごとに臨時に内容伝達並びに管理職により指導の場を設けている。

2 議題及び内容等

議題	学校数・延べ数	改善された内容・対策等(主なもの)
交通事故・飲酒運転等	19校・31回 (全校)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遠距離通勤者が多い実態を踏まえ、通勤経路危険マップを作成した学校が多い。 ○ 道路状況に応じた安全な運転の仕方について議題として取り上げている。 ○ 翌朝に残らない飲酒時間の設定がなされている。
学校経理事務	18校・18回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公金取扱い事務の確認、通帳管理に向けたシステム作りを進めている。
体罰	19校・22回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉による体罰があることの意識化、アンガーマネジメント、複数教員での指導が図られている。
セクハラ・わいせつ	19校・23回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権に関する研修を服務倫理委員会の中で行うなどの工夫が見られた。 ○ 通知や報道の内容を他人事として捉えることがないよう、事例研修を進めている。
個人情報管理	15校・15回	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内における個人情報の管理の共通理解と確実な実践がなされている。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「信頼される学校づくりを職場の力で」の内容確認 ○ チェックリストの時間の設定 ○ 懲戒処分に関する内容の研修 ○ 地域駐在等、外部講師を招聘しての研修 ○ 表簿作成と管理の重要性についての研修

<考察>

- 今年度、田村市における教職員の不祥事に関する事案はなかった。服務倫理委員会が計画的に開催され、他地区で起こった事案に対し「当事者意識」で考えることが徹底されてきているものと考える。
- 本市に勤務する教職員は、遠距離通勤者が多く、交通事故防止及び速度超過に関する防止対策が各学校で徹底されてきている。
- 現在、保護者、学校評議員、警察等の教職員以外の方を交えた服務倫理委員会を開催している学校もあるが、少ない現状であるため、第三者の活用推進を図っていきたい。

2 生涯学習の充実

■は今年度重点施策

① 公民館の活性化を図ります。

(1) 学級講座の充実

- 市民のニーズを捉えた学級講座の企画
- 学級講座の評価と再検討
- 学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有
- 共同開催する学級講座の企画
- (2) 公民館運営の活性化**
- 市民に愛される公民館づくり
 - 管理運営体制の検証
 - 市民に愛される公民館の管理運営方法の検討

② 放課後子ども教室事業を推進します。

- (1) 放課後子ども教室推進**
- 放課後子ども教室の円滑な運営
- 実施校の継続
- コーディネーター及び指導員の育成と確保
 - コーディネーターの育成
 - 指導員の育成
 - 指導員の確保
- 放課後子ども教室の周知及び広報
- 教室だより、めだかの学校通信の発行

③ 学校支援地域本部事業の推進を図ります。

- (1) 学校支援地域本部事業の円滑な実施**
- 学校支援地域本部事業の推進
 - 学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催
- 地域の人材活用体制の整備
 - コーディネーターの育成
 - ボランティアの有効活用
 - ボランティアの確保と資質向上
- 学校支援地域本部事業の周知及び広報
 - 学校支援地域本部だよりの発行

④ 図書館の機能を充実します。

(1) 図書館の機能充実

- 利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実
 - ニーズに合わせた蔵書の確保
 - 貸出予約の利便化
 - 年代別図書コーナーの設置
 - 自主事業の充実
 - 図書ボランティアの育成
- 子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動の推進
 - 第二次田村市子ども読書活動推進計画の実践
 - 子どもが利用しやすい館内環境の整備
 - 学習支援機能の充実
 - 子どもの読書活動にかかる関係者の資質向上
- 図書館事業の周知
 - 市民等への広報

4 文化財の保護と継承

① 地域に残された文化財の保存と継承を推進します。

(1) 文化財の保存と継承

- 文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加
- 指定文化財の防災訓練と防火査察の実施
- 指定文化財の周知
- 民俗文化の保存と伝統芸能の継承
- 田村市史シリーズの継続発行

② 地域の歴史を学び親しめる施設を整備します。

(1) 歴史民俗資料館の活用と文化財資料館の整備

- 歴史民俗資料館の活用促進
- 文化財資料館の整備



3 芸術文化活動の推進

① 多様な芸術文化活動を支援します。

- (1) 芸術文化活動への支援**
- 芸術文化団体への支援
- 各地区文化祭・芸能祭への支援

② 文化センターを活用した芸術文化の提供に努めます。

- (1) 質の高い自主文化事業等の実施**
- 文化センター運営委員会の開催
- 小中学校芸術鑑賞教室の開催
- 市民による身近な芸術文化の提供
- 市民等への広報

5 スポーツ・レクリエーション活動の推進

① 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。

- (1) 運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大**
- 県内外からの高校、大学の合宿誘致
- 県レベル各種大会の誘致
- 施設のPR
- クロスカントリーコースの利活用
- (2) 田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進**
- 学校・スポーツ団体との連携による参加者の拡大
- (3) ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦**
- 年間を通じた質の高い練習、スタッフの確保
- 田村市チーム運営の委託契約

② スポーツ・レクリエーションを通した交流を推進します。

- (1) 小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催**
- ソフトボール大会、駅伝大会等の開催
- スポーツ教室の開催

③ 活動を支える充実した指導体制を確立します。

- (1) 指導者対象の研修会、講習会の開催**
- スポーツ推進員研修会・講習会
- スポーツ講演会の開催

[田村市の教育10のキーワード]

- ①安全・安心（危機管理）
- ②共生と連携と評価の時代（教育の道しるべ）
- ③実践と点検・検証（教育活動の原理原則）
- ④真実は相手が理解してはじめて真実になる（説明責任・結果責任）
- ⑤心身を養えば学力は伸びる（知・徳・体のとらえ）

- ⑥基礎・基本（学力向上の基盤）
- ⑦当たり前のことを当たり前に思って当たり前に行動する（行動基準）
- ⑧感動と共感と感化（情操の育成）
- ⑨愛郷心（語り継ぐ田村の教えと郷土への誇り）
- ⑩市民参加の教育づくり（地域連携の強化と地域教育力の向上）

2 教育振興推進プログラムダイジェストⅡ（生涯学習課所管事業）

2 生涯学習の充実

施策目標2－①「公民館の活性化を図ります。」

生涯学習に対する市民の意欲向上を図るため、それぞれの地域における多様なニーズを捉えた特色のある学級講座を企画するとともに、市民同士の交流機会を拡充するため、各公民館共同での学級講座開催や地域外市民の参加も検討するなどして、公民館の活性化を図ります。

また、誰もが気軽に訪れることができ、身近に利用しやすい市民に愛される公民館づくりを推進します。

指標2－①(1)－1：市民のニーズを捉えた学級講座の企画

- ・学級講座の評価と再検討
- ・学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有
- ・共同開催する学級講座の企画

指標2－①(2)－1：市民に愛される公民館づくり

- ・管理運営体制の検証
- ・市民に愛される公民館の管理運営方法の検討

施策目標2－②「放課後子ども教室事業を推進します」

子どもたちが学年の垣根をこえて、共に遊び・学びあうことにより、心豊かで健やかに育まれる環境を提供するために、地域の方々の協力を得て見守りを行うとともに、安全・安心な居場所を設置し、健全な児童の育成を行います。

指標2－②(1)－1：放課後子ども教室の円滑な運営

- ・実施校の継続

指標2－②(1)－2：コーディネーター及び指導員の育成と確保

- ・コーディネーター育成
- ・指導員の育成
- ・指導員の確保

【参考資料】

平成30年度田村市放課後子どもプラン事業報告について

①放課後子どもプラン運営委員会事業報告

開催期日	開催場所	事業名	内容	備考
5月30日(水)	田村市役所	第1回運営委員会	委員委嘱、平成29年度事業計画など	委員9名出席
7月17日(火)	西向小学校	県中教育事務所 放課後子ども教室訪問	西向めだかの学校活動状況視察の対応	事務局対応
7月26日(木)	常葉体育館	第13回 田村市放課後児童クラブ交流会	市内児童クラブ交流事業（ミニ運動会等）	事務局対応
7月22日(日)	田村市役所	田村っ子きずなフェスタ2018	イベント協力	事務局対応
8月19日(日)	田村市内	灯籠流し大会	灯籠作成、灯籠流し実施	事務局対応
8月23日(木)	玉川村	放課後子ども教室県中地区研修会	講演、講習（レクリエーション教室）、情報交換、教室見学	事務局対応
10月16日(火)	田村市役所	第2回運営委員会	平成30年度事業進捗状況報告など	委員7名出席
10月16日(火)	田村市役所	田村市社会教育関係者合同研修会	県中教育事務所・岡部氏による講話	委員5名出席
1月16日(水)	郡山市	フローアップ研修会（県主催事業）	事業概要説明、講演等	安全管理員等24名出席
2月15日(金)	船引公民館	放課後子ども教室コーディネーター・指導員等情報交換会	講演、情報交換	安全管理員等37名出席
3月11日(火)	田村市役所	第3回運営委員会	平成30年度事業報告など	
3月中旬		広報誌「めだかの学校通信」Vol.21発行	広報誌の発行	

②放課後子ども教室推進事業（めだかの学校）実施報告

○めだかの学校実施状況

	名 称	開催期間	開催日数	全児童数	登録児童数 (9月末現在)	参加率	延参加児童数 (9月末現在)
1	滝根めだかの学校	H30.4.10～ H31.3.7	143日	185人	159名	86%	6,492人
2	関本めだかの学校	H30.4.16～ H31.3.15	195日	56人	55名	98%	2,072人
3	西向めだかの学校	H30.4.9～ H31.3.13	122日	62人	46名	74%	1,507人
4	芦沢めだかの学校 (芦沢幼稚園含む)	H30.4.12～ H31.3.15	177日	48人	51名	106%	1,827人
5	船引南めだかの学校 (船引南幼稚園含む)	H30.4.11～ H31.3.4	183日	99人	78名	79%	3,655人
6	美山めだかの学校	H30.4.18～ H31.3.8	144日	50人	50名	100%	1,767人
7	緑めだかの学校 (緑幼稚園含む)	H30.4.11～ H31.3.8	191日	49人	53名	108%	2,967人
8	瀬川めだかの学校	H30.4.11～ H31.3.20	180日	34人	34名	100%	1,623人
9	要田めだかの学校	H30.4.16～ H31.3.7	186日	47人	47名	100%	1,992人
		計	1,521日	630人	573人	91%	23,902人

施策目標 2－③ 「学校支援地域本部事業の推進を図ります」

子どもたちの健全育成を図るため、地域全体で学校を支えることができるよう、学校と地域との連携体制を構築し、学習支援活動や登下校の安全確保のための活動等、地域住民による積極的な学校支援の取り組みを促進し、教員の子どもと向き合う時間の増加や住民等の学習効果の活用機会の拡充及び地域教育力の活性化を図ります。

指標 2－③(1)－1：学校支援地域本部事業の推進

- ・学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催

指標 2－③(1)－2：地域の人材活用体制の整備

- ・コーディネーターの育成
- ・ボランティアの確保と有効活用、資質向上

指標 2－③(1)－3：学校支援地域本部事業の周知及び広報

- ・学校支援地域本部だよりの発行

【参考資料】

学校支援地域本部会議 事業実績

事業名	実施日	場所	内容等
第1回各地域教育協議会	4月～5月	各公民館等	委嘱状交付
第1回田村市学校支援地域本部会議	5月30日(水)	田村市役所	H29事業計画, 評価等に係る協議等
第1回田村市コーディネーター・担当者情報交換会	5月30日(水)	田村市役所	関係者による情報交換(13名出席)
第1回学校支援実践研修会(県主催事業)	6月4日(月)	郡山市ユラックス熱海	講演, 事例発表等(7名出席)
第2回田村市学校支援地域本部会議	11月28日(水)	田村市役所	H30事業進捗状況等
第2回田村市コーディネーター・担当者情報交換会	11月28日(水)	田村市役所	関係者による情報交換
第2回学校支援実践研修会(県主催事業)	12月4日(火)	玉川村たまかわ文化体育館	支援活動参観, 事業概要説明, 事例発表等(7名出席)
フローアップ研修会(県主催事業)	1月16日(水)	郡山市労働福祉会館	事業概要説明, 講演等(4名出席)
域学校協働活動事業推進フォーラム(県主催事業)	1月30日(水)	郡山市ピックパレットふくしま	実践発表、シンポジウム等(5名出席)
第3回田村市学校支援地域本部会議	3月20日(水)	田村市役所	H30事業結果報告, 事業評価等
第3回田村市コーディネーター・担当者情報交換会	3月20日(水)	田村市役所	関係者による情報交換

支援実績（滝根・大越・都路・常葉・船引地区合計 ※H30.9月末）

種別	内容	延べ実施回数	ボランティア延べ人数
学習支援 ボランティア	学習支援（書写・調理実習・体育・ミシン・郷土史など, 卓球・将棋・木工クラブなど, 校外学習引率など）	59回	120名
体験活動 ボランティア	体験活動支援（しめ縄づくり, 野菜栽培・収穫, 郷土食の調理実習, 和太鼓など）	20回	37名
スポーツ ボランティア	部活動支援（野球・卓球・バレー・ボーラー・ソフトボール・ソフトテニス・剣道）	236回	283名
図書 ボランティア	図書支援（読み聞かせ, 貸出補助, 図書整理, ポップづくり, 壁面飾りつけなど）	133回	213名
安全指導 ボランティア	安全指導支援（登下校時の見守り, 交通安全指導, 防犯教室, こども園運動会時の見守りなど）	906回	1,123名
クリーン ボランティア	環境整備支援（校庭整備・除草, 植木剪定, 花壇整備, 修繕など）	24回	141名
イベント ボランティア	学校行事支援（ゲートボール教室, 運動会等イベント時の支援, 授業参観日等の見守りなど）	23回	86名
その他の ボランティア	その他の支援（民話・語りべ）	9回	16名
	合計	1,410回	2,019名

施策目標2－④「図書館の機能を充実します」

幼児から高齢者、障害を持つ方にも対応した利用しやすい身近な図書館を目指し、ニーズに対応した蔵書の充実をはじめ、市内外図書館とのネットワーク化、大学図書館などとの相互協力、ユニバーサルデザイン化を進めます。

図書館機能を最大限に活用するため、県内外の事例を参考にしながら、学校図書館への支援や親子で交流する場の創出、ホームページからの貸出予約など効率的な運営管理に取り組みます。

指標2－④(1)－1：利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実

- ・ニーズに合わせた計画的な蔵書の確保
- ・貸出予約の利便化
- ・年代別図書コーナーの設置
- ・自主事業の充実
- ・図書ボランティアの育成

指標2－④(1)－2：子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動の推進

- ・第二次田村市子ども読書活動推進計画の実践
- ・子どもが利用しやすい館内環境の整備
- ・学習支援機能の充実
- ・子どもの読書活動にかかわる関係者の資質向上

指標2－④(1)－3：図書館事業の周知

- ・市民等への広報

【参考資料】

区分		対象	期日	場所	備考 ※実績は2月末現在
田村市図書館本館	学校支援	小中学校・高校・特別支援学校等	年間	全館	見学学習 16回 372名 体験学習 7回 15名 団体貸出 43団体 2,390冊
	おはなし会ボランティアの育成	ボランティア・市民	年間 (年2~3回)	本館・市役所等	読み聞かせボランティア団体連絡会 第1回 8/30 22名参加 第2回 2/13 29名参加
	ひだまりおはなし会	0歳~2歳と保護者	毎月 第1・第3金曜	本館	おはなし会どんぐりによる本の読み聞かせ、わらべうた、手遊び等 20回 165名参加
	おはなしの広場(特別おはなし会)	幼児・児童・一般	年2回 (夏・冬)	本館	工作等のお楽しみ会とおはなし会 夏 7/21 31名参加 冬 12/22 54名参加
	春の特別おはなし会(こどもの読書週間)	小学生	年1回	本館	絵本の読み聞かせ、朗読、素語りなど 4/28 27名参加
	夏の怖いおはなし会	児童・一般	年1回	本館	絵本等の読み聞かせ 8/18 18名参加
	大人のためのおはなし会	学生・一般 (15名~20名)	年3回	本館	絵本の読み聞かせ、朗読、素語りなど 7/1 4名参加 11/25 9名参加
	学校支援おはなし会	幼児・児童	年間	幼稚園・保育所・小中学校・子育て支援センター等	おはなし会ボランティアによる読み聞かせ等 64回 1,577名参加
	ブックスタート事業	市民(乳児とその保護者)	4ヶ月・10か月健康診査 実施日(毎月1回)	船引保健センター	こども未来課、保健課と連携し、ブックスタート活動の実施 4か月児 11回 436名参加 10か月児 10回 404名参加
	めざせ!図書館員講座	市内小・中学生 (4名~10名以内)	7月~3月 (全10回) 1講座2時間	本館 常葉分館	図書館の仕事を通して学校図書館や地域で利用の推進者となる人材を育成する 受講生8名9回実施
滝根分館	こども語り手養成講座	市内小・中学生	6月~10月	本館 船引公民館	地域に伝わる昔話を伝承する若い人材の育成 受講生4名4回実施 10/27 文化祭で昔話を発表
	読み書き関係講演会	幼児・児童・一般	11月4日 (日)	市役所多目的ホール	講演会 64名参加
	定例おはなし会	乳幼児・保護者	年間9回程度	滝根公民館	担当者及びボランティアによる読み聞かせ 7回 31名参加
大越分館	特別おはなし会	乳幼児・保護者 小学生低学年	年間2回		お話し会とクラフト工作、お菓子づくり 12/2 11名参加
	学校支援おはなし会	幼児・児童・一般	年間	大越公民館	保育所 2回 77名 幼稚園 3回 91名 小学校 30回 911名 三世代交流館 3回 48名
	定例おはなし会	乳幼児・保護者 小学生低学年	年間5回程度		担当者及びボランティアによる読み聞かせ 5回 130名参加
都路分館	特別おはなし会	乳幼児・保護者 小学生低学年	年間2回		1回 35名
	学校支援おはなし会	幼児・児童	年間 各10回程度	こども園・小学校	こども園保育 8回 180名 こども園幼児 6回 207名 こども園預かり 1回 39名 小学校 4回 182名
	特例おはなし会	幼児・児童・一般	年2回 (夏・冬)		工作等のお楽しみ会とおはなし会 夏ドキドキおはなし会 8/7 21名 冬キラキラおはなし会 12/25 63名
常葉分館	学校支援おはなし会	幼児・児童	年間 各10回程度	こども園・小学校	こども園保育 8回 125名 こども園幼児 8回 47名 こども園児童館 9回 347名
	おはなし会	乳幼児・保護者	毎月第3水曜	常葉公民館	定例おはなし会 11回 28名参加
常葉分館	学校支援おはなし会	幼児・児童	年間	幼稚園・保育所・小中学校等	保育所 8回 300名 児童生活センター 1回 29名 小学校 42回 854名

3 芸術文化活動の推進

施策目標 3-① 「芸術文化活動の推進を図ります。」

質の高い芸術文化や伝統文化に日ごろから親しむことで、心豊かな人間性を育みます。また、市民が地域の芸術文化の担い手となり、地域文化の創造を通じて地域を活性化する活動を支援します。

指標 3-①(1) : 芸術文化活動への支援

- ・芸術文化団体への支援
- ・各地区文化祭・芸能祭への支援

指標 3-②(1) : 質の高い自主文化事業等の実施

- ・文化センター運営協議会の開催
- ・小中学校芸術鑑賞教室の開催
- ・市民による身近な芸術文化の提供
- ・市民等への広報

【参考資料】

小・中学生芸術鑑賞教室実績

事業名	実施月日	回数	対象学年	参加者数（引率者含む）
小学生芸術鑑賞教室 「和楽器鑑賞会」	6月7日	2	5・6年生	601人
中学生芸術鑑賞教室 「演劇鑑賞会」	7月3日	1	2年生	363人

次代を担う子どもの文化芸術体験事業実施校

事業名	学校名	実施月日	公演・体験内容
巡回公演事業 (4校応募で1校採択)	西向小	9月19日	ミュージカル
	都路小	11月19日	児童劇
派遣事業 (4校応募で4校採択)	大越小	7月4日	音楽
	常葉小	8月3日	声楽
	船引小	10月3日	ヒップホップダンス
	瀬川小	12月6日	音楽

文化センター自主文化事業実績

事業名	実施月日	回数	入場者数
よしもとお笑いライブ&SILENT SIREN	2月11日	1	742人

4 文化財の保護と継承

施策目標 4-① 「地域に残された文化財の保存と継承を推進します。」

貴重な郷土の財産である文化財に対する市民の関心を高めながら、歴史資料の保存や発掘、無形民俗文化財を伝承する人材の育成などを推進します。

指標 4-①(1) : 文化財の保存と継承

- ・文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加
- ・指定文化財の防災訓練と防火査察の実施
- ・指定文化財の周知
- ・民俗文化の保存と伝統芸能の継承
- ・田村市史シリーズの継続発行

指標 4-②(1) : 地域の歴史を学び親しめる施設を整備します。。

- ・歴史民俗資料館の活用促進
- ・文化財資料館の整備検討

5 スポーツレクリエーション活動の推進

施策目標 5-①「幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。」

市民の健康増進・体力向上のために、スポーツ活動の拠点となる運動公園内の施設を利用した室内外の競技スポーツ交流人口の拡大と「市民がスポーツをする」機会を増やし、スポーツの盛んな明るい地域社会づくりを図ります。

また、公式大会を誘致し、市民が身近で「スポーツを見る」楽しさに目覚め、「スポーツをする」契機に発展していくように推進を図ります。

指標 5-①(1)：運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大

- ・県内外からの高校、大学の合宿誘致
- ・県レベル各種大会の誘致
- ・施設のPR
- ・クロスカントリーコースの利活用

指標 5-①(2)：田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進

- ・学校・スポーツ少年団との連携による参加者の拡大

指標 5-①(3)：ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦

- ・年間を通した質の高い練習、スタッフの確保
- ・田村市チーム運営の委託契約

指標 5-②(1)：小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催

- ・ソフトボール大会、駅伝大会等の開催
- ・スポーツ教室の開催

指標 5-③(1)：指導者対象の研修会、講習会の開催

- ・スポーツ推進員研修会・講習会
- ・スポーツ講演会の開催

【参考資料】

運動公園 合宿利用実績 (H30)

施設	団体
総合体育館	東京都 明治学院東村山高校バドミントン部 (2回8日)
総合体育館	東京都 明治学院東村山高校バスケットボール部 (1回4日)

運動公園 県大会等利用実績 (H30)

施設	団体
総合体育館	繫 バレーボール大会 (1日)
	第56回福島県障がい者総合体育大会 フライングディスク競技 (1日)
	繫 バレーボール大会 (1日)
	福島県内中学生バレーボール交流イベント友情ネットプロジェクト (1日)
	福島県総合防災訓練 (1日)
	近県選抜中学生ソフトテニスインドア大会 (2日)
	U12・U13エンデバーバスケットボール交流大会 (1日)
	福島県都道府県中学校選抜ソフトテニス研修大会 (1日)
	第4回ウインターフラッシュ福島県障がい者フライング大会 (1日)
陸上競技場	2020東京オリンピック選出育成事業 (21日)
	第56回福島県障がい者総合体育大会フライングディスク競技 (1日)
	福島県ゲートボール大会 (1日)
	福島県総合防災訓練 (1日)
	第28回福島県リレーカーニバル (1日)
	福島県障がい者フライング大会 (1日)
	30代大人の大運動会 (1日)
	第37回田村富士ロードレース大会 (1日)
多目的運動広場	第4回たむらクロスカントリー大会 (1日)
	福島県中学生ソフトボール大会 (2日)
	福島県総合防災訓練 (1日)

クロスカントリーコース利用実績 (H30)

施設	団体
大会等	第37回田村富士ロードレース大会・ウォークの部 (1日)
	第4回たむらクロスカントリー大会 (1日)
トレーニング	船引中、三春中、大越中、ふくしま駅伝田村市チーム、田村市陸協、田村高校、小野高校、川内中、富田中、岩江中、船引南中、都路中、常葉中、滝根中、葛尾中、西田中、船引歩く友の会、尚志高校、日大工学部、ひらた清風中、帝京安積高校、安積高校、安積黎明高校

田村富士ロードレース大会申込者（地域別）

年度	市内	市外	県外	合計	完走者
H30	936	305	31	1,272	1,172
H29	944	298	30	1,272	1,124
H28	919	230	45	1,194	1,075
H27	966	287	49	1,302	1,144
H26	931	334	67	1,332	1,135
H25	1,012	337	105	1,454	1,273

田村富士ロードレース大会申込者（部門別）

年度	小学生	中学生	高校	一般	親子	ウォーカー
H30	266	285	13	202	424	82
H29	278	353	55	179	338	69
H28	254	308	48	241	268	75
H27	298	323	62	270	268	81
H26	257	359	70	299	252	95
H25	349	376	48	297	314	70

市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会成績

年度	記録	市の部	総合の部
H30	5時間17分46秒	7位	10位
H29	5時間13分15秒	5位	7位
H28	5時間11分48秒	5位	5位
H27	5時間13分07秒	6位	6位
H26	5時間11分38秒	5位	5位
H25	5時間13分51秒	7位	7位

青少年スポーツ大会実績

大会名	参加チーム数	参加者数
あぶくま洞大多鬼丸旗争奪児童ソフトボール大会	64チーム	1,300名
都路町グリーンパーク杯ソフトボール大会	24チーム	450名
都路町グリーンパーク杯バーレーボール大会	24チーム	550名
ビートル駅伝大会	57チーム	550名

講習会等実績（H30）

講習会等名	会場	参加者数
震災復興支援市民ふれあい卓球教室	滝根中学校体育館	130名
バレー教室（小、スポ少・中）	市総合体育館	110名
サッカー教室（小、スポ少）	市陸上競技場	50名
バスケットボールクリニック（小、スポ少）	市総合体育館	110名
バスケットボールクリニック（中学生）	市総合体育館	50名
バスケットボールクリニック（小、スポ少）	市総合体育館	86名

田村市の将来像 「あぶくまの人・郷・夢を育むまち～はつらつ高原都市 田村市～」

田村市教育委員会基本方針 「未来を担う 人づくり」

6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

■は今年度重点施策

① 教育委員会の活性化を図ります。

(1) 開かれた教育委員会

- 教育委員会の透明性を高める取組
- 所管事務の調査、施設等の視察
- 意見交換会の開催
- 会議運営の工夫、内容の公表

(2) 教育委員会施策の重点化

- 教育推進プログラムの重点化と自己評価
- ダイジェスト版の策定
- 教育振興推進プログラムの自己評価

(3) 外部評価と公表

- 外部評価委員による評価及び公表
- 外部評価委員会の定期開催
- 評価結果の議会報告とホームページ掲載

② 教育環境の整備・充実を進めます。

(1) 田村市総合計画に基づく校舎及び園舎等の整備

- 教育活動の場にふさわしい環境の整備
- 要望や状況をふまえた計画的な修繕
- 施設の耐震化の推進
- 校舎及び体育館の計画的な耐震化工事

(2) 学校の安全管理と事故防止

- 児童生徒の安全な学校生活のための環境整備
- 安全点検後の迅速な修繕
- 防火管理体制の評価
- 通学路の点検及び危険箇所への対応

(3) 児童生徒の通学支援

- 児童生徒の通学支援
- 遠距離通学児童生徒への通学支援
- 自転車通学への通学支援

③ 教育予算を効果的・効率的に執行します。

(1) 教育予算の効果的運用

- 田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行
- 教育大綱に基づく重点事業の設定
- 予算編成ヒアリングの実施

④ 人材育成を推進します。

(1) 高校生・大学生の就学支援

- 奨学制度の効果的な運営
- 奨学制度の周知

(2) 高校生の海外留学支援

- 海外留学支援制度の周知
- 海外留学支援制度の周知

⑤ 教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。

(1) 少子化に伴う複式学級解消に向けた学校規模の適正化推進

- 学校規模の適正化推進
- 各地域の現状把握



[田村市の教育 10 のキーワード]

- ① 安全・安心（危機管理）
- ② 共生と連携と評価の時代（教育の道しるべ）
- ③ 実践と点検・検証（教育活動の原理原則）
- ④ 真実は相手が理解してはじめて真実になる（説明責任・結果責任）
- ⑤ 心身を養えば学力は伸びる（知・徳・体のとらえ）

- ⑥ 基礎・基本（学力向上の基盤）
- ⑦ 当たり前のことを当たり前に思って当たり前に行動する（行動基準）
- ⑧ 感動と共感と感化（情操の育成）
- ⑨ 愛郷心（語り継ぐ田村の教えと郷土への誇り）
- ⑩ 市民参加の教育づくり（地域連携の強化と地域教育力の向上）

3 教育振興推進プログラムダイジェストⅢ（教育総務課所管事業）

6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

施策目標 6-①：「教育委員会の活性化を図ります。」

指標 6-①(1)-1：教育委員会の透明性を高める取組

○ 所管事務調査、施設等の視察

- 滝根幼稚園を併設する滝根小学校の現地視察
- ネーパール オリンピックチームと都路中学校の生徒との交流授業
- 都路体育館耐震改修・大規模修繕事業の視察
- 常葉地区小学校統合進捗状況、常葉小学校と常葉中学校の5-4制による小中一貫教育の準備状況をそれぞれの学校で調査

○ 意見交換会の開催計画

- 市長との教育懇談会を3回実施し意見を交換した。

○ 会議運営の工夫、内容の公表

会議資料の事前配布や会議での効率的な説明に努め、教育委員会の会議日程と議題をホームページで公表した。

教育委員会を定例会12回、臨時会3回、施設訪問3回、次年度事業等の勉強会及び市長との教育懇談会3回実施。

委員会討議・課題テーマ一覧

- ① 教育委員会の事務に関する点検評価
- ② 関本小学校・西向小学校の閉校準備
- ③ 常葉地区小中学校の5-4制の小中一貫教育の取り組み
- ④ 要保護及び準要保護児童生徒の認定
- ⑤ 中学生海外派遣研修事業
- ⑥ 学校給食センターの運営方針と食育計画
- ⑦ 全国学力・学習状況調査結果の公表
- ⑧ 給食費及び奨学資金の未納者に対する対応
- ⑨ めだかの学校の運営方法等
- ⑩ 学校支援地域本部、各地域教育協議会の状況
- ⑪ 滝根幼稚園整備事業内容
- ⑫ 今後の児童・生徒数の推計

教育委員会の所管事務の調査、施設や教育活動等の視察状況

月 日	事 業 名	場 所
4月 6日	市立小・中学校入学式、始業式	各小・中学校
4月 9日	市立幼稚園・こども園入園式	各幼稚園・こども園
4月 17日	市長との教育懇談会	市役所
5月 7日	第1回外部評価委員会	市役所
5月 9日	第1回田村市総合教育会議	市役所
5月 10日	中体連田村支部陸上競技大会	陸上競技場
5月 30日	中体連田村支部大会（～5月31日）	総合体育館ほか
7月 24日	市長との教育懇談会	市役所
7月 27日	市町村教育委員会連絡協議会田村支会研修会	市役所
7月 29日～7月 31日	中学生夏季英語研修事業（サマーイングリッシュキャンプ）	スカイパレスときわ
7月 30日～7月 31日	田村市小学生サマースクール	各中学校区内の小学校
8月 5日	田村市少年の主張大会	文化センター
8月 28日	県市町村教育委員会連絡協議会教育委員研修会	福島テルサ
9月 6日	中体連田村支部駅伝競走大会	陸上競技場
9月 12日	田村市小学校陸上競技大会	陸上競技場
9月 25日	第1回教育委員会所管施設訪問	滝根小学校
9月 27日	県市町村教育委員会連絡協議会県中ブロック研修会	コミュタン福島
9月 27日	中体連支部新人大会（～28日）	総合体育館 ほか
10月 13日	国際交流運動会	陸上競技場
10月 17日	ネパールオリンピックチーム合宿（～24日）	陸上競技場
10月 21日	第37回田村富士ロードレース大会	陸上競技場
10月 23日	第2回教育委員会所管施設訪問	都路中学校 古道体育館
11月 12日	教育講演会「公立小中学校の適正規模、適正配置等」	市役所
11月 18日	第30回福島県縦断駅伝競走大会	白河～福島
11月 19日	第9回田村地方交通安全大会	小野町多目的研修施設
11月 20日	第3回教育委員会所管施設訪問	常葉小学校 常葉中学校
1月 13日	平成31年田村市成人式	文化センター

月 日	事 業 名	場 所
1月17日	教育委員会勉強会	市役所
1月21日	市長との教育懇談会	市役所
2月17日	平成30年度田村市教育実践報告会	文化センター
3月13日	市立中学校卒業式	各中学校
3月18日	市立幼稚園・こども園卒園式	各幼稚園・こども園
3月17日	第3回たむらクロスカントリー大会	クロスカントリーコース
3月19日	第2回外部評価委員会	市役所
3月22日	市立小学校卒業式・修了式	各小学校
3月23日	市立西向小学校閉校式 市立関本小学校閉校式	西向小学校 関本小学校
3月28日	市教育委員会表彰式	市役所

指標6-①(2)-1：教育推進プログラムの重点化と自己評価

- 教育大綱ダイジェスト版の策定
- 課内での施策に対する自己評価の実施

指標6-①(3)-1：外部評価委員による評価及び公表

- 外部評価委員会の前期・後期の開催
- 外部評価委員会委員の評価、評価結果の議会報告、ホームページ掲載

施策目標6-②：「教育環境の整備・充実を進めます。」

指標6-②(1)-1：教育活動の場にふさわしい環境の整備

- 要望や現状を踏まえた計画的修繕の実施
常葉小学校塗装工事、常葉小学校校舎屋上防水工事、常葉小学校及び滝根中学校トイレ洋式化工事、瀬川小学校屋内運動場修繕工事、要田小学校屋根軒天改修工事、船引南中学校生徒ロッカー修繕工事、都路中学校食堂内装修繕工事

指標6-②(1)-2：施設の耐震化の推進

- 施設の耐震化は、耐震診断結果の優先順位など耐震化計画に基づき、船引

南小学校屋内運動場耐震補強事業を実施

指標 6-②(2)-1：児童生徒の安全な学校生活のための環境整備

- 通学路の点検については、通学路にあるブロック塀を重点的に点検しブロック塀の危険個所マップを地域ごとに作成、小中学校へ配布し注意喚起を図った。
- スクールバスに試乗し安全確認を実施
- 通学路安全点検（H29）における危険個所の解消 1か所（船引川代橋地内）

指標 6-②(3)-1：児童生徒の通学支援

- 遠距離通学児童生徒への通学支援として、補助金交付の継続
- 自転車通学への通学支援として、ヘルメット購入補助の継続

施策目標 6-③：「教育予算を効果的・効率的に執行します。」

指標 6-③(1)-1：田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行

- 教育予算の効果的運用のため、時期を失すことなく早期に執行
予算編成ヒアリングの実施や教育大綱に基づく重点事業の設定を行い、次年度に向けた効果的な教育予算を要求

施策目標 6-④：「人材育成を推進します。」

指標 6-④(1)-1：奨学制度の効果的な運営

- 奨学制度の周知は、市内の中学校や市出身の高校生が在籍する高校へ制度案内依頼
- 広報誌、ホームページ掲載
本年度貸付者、11名（うち本年度新規貸付者1名）
(大学 8名、専門学校 3名)
本年度貸与年額 540万円
- 来年度給与者 専門学校1名 面接試験、作文試験を実施し決定

指標 6-④(2)-1：海外留学支援制度の周知

- 海外留学支援制度は、猪狩俊郎人材育成基金により高校生の海外留学を支援するもので、1年間のアメリカ留学に対する渡航費、学費、滞在費の助成で、現在までに3名に支援した。
- 田村市の高校生が在籍する高校への周知依頼
- 中学生海外派遣研修参加者へのチラシ配布による周知
- 広報紙、ホームページへの掲載

施策目標 6-⑤：「教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。」

指標 6-⑤(1)-1：学校規模の適正化推進

- 児童・生徒数の推計

児童数推計

単位：人

区分	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
滝根小	182	166	160	153	144	137	139
大越小	179	181	184	177	174	154	148
都路小	59	51	52	56	54	50	43
関本小	56	—	—	—	—	—	—
常葉小	128	236	238	233	231	218	210
西向小	62	—	—	—	—	—	—
芦沢小	48	44	38	43	43	39	37
船引南小	99	99	101	95	92	95	87
船引小	691	694	672	670	632	612	603
美山小	50	47	49	47	51	53	54
緑小	49	46	49	50	56	56	55
瀬川小	34	40	38	41	42	43	41
要田小	47	51	46	51	48	53	62
計	1,684	1,655	1,627	1,616	1,567	1,510	1,479

要田小学校の田村市と三春町の児童数の推移

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
田村市	22	22	19	22	21	21
三春町	25	29	27	29	27	32

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
滝根中	126	120	100	103	97	99	79
大越中	105	102	102	96	87	91	83
都路中	51	43	31	27	26	26	32
常葉中	139	131	124	129	119	121	117
船引南中	71	70	72	78	77	77	69
船引中	446	419	406	404	433	443	436
計	938	885	835	837	839	857	816

○ 関本小学校、西向小学校の常葉小学校への統合

- ・閉校式開催及び準備
- ・常葉地区小学校統合準備委員会開催状況

月 日	内 容	場 所
平成30年 5月30日(水)	規約・組織・役員の決定	文化の館 ときわ
平成30年12月 1日(土)	3小学校小委員会からの経過報告	文化の館 ときわ
平成31年 3月16日(土)	3小学校小委員会からの経過報告 準備委員会の年度末解散	文化の館 ときわ

- ・関本小学校小委員会 スクールバス運行
 閉校記念イベントの企画・運営
 閉校記念誌の発行
- ・西向小学校小委員会 スクールバス運行
 閉校記念イベントの企画・運営
 閉校記念誌の発行
- ・常葉地区小学校統合組織委員会 P T A組織の調整
 めだかの学校実施方法
- ・関本小学校・西向小学校から常葉小学校への引っ越し 3月24日(日)

～ Ⅲ 外部評価委員より ～

平成30年度事業実施結果・評価

学校教育課

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施 策		内部評価	外部評価
1 学校教育の充実	1 知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」を確立します。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学力向上の支援 <ul style="list-style-type: none"> ■活用力を育成する授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○主体的、対話的で深い学びのある授業 ○「授業スタンダード」に基づく授業 ○「活用力育成シート」の活用 ■学習規律、学習習慣の確立 <ul style="list-style-type: none"> ○「家庭学習スタンダード」の活用 ○学習規律の定着と学び方の指導 ○小学生サマースクール（5学年） 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりに向けて、学力向上推進会議において小学校を会場に授業研究会を開催した。また、学校支援指導主事及び外部講師（県中教育事務所指導主事）による模擬授業、講義・講演を実施し、授業力の向上に努めた。 ○「授業スタンダード」に基づく授業づくりの推奨は、教員一人一人の授業改善につながっている。 (指標1-①(1)-1) ○各学校ごとに実施した小学生サマースクールでは、夏季休業中の家庭学習への意欲付けを図った。
	■保-幼-小-中の連携充実	<ul style="list-style-type: none"> ○幼小中連携ステップアップ支援事業 ○幼小中連携推進会議の充実 ○「たむらっ子はぐくみステップ」の実践 ○小学校入門期指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校区ごとに連携を図り、授業研究会をはじめ、生徒指導や保健に関する協議会、こども同士の交流等、創意工夫を生かした事業を推進し、連携充実を図っている。小1プロブレムや中1ギャップなどの未然防止にもつながっている。
	□学力実態調査の結果分析と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○由村子ノリ調査・八子土塙子ノリ調査 ○全国学力・学習状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の結果、中学校国語B及び数学Bに課題が残った。授業スタンダード等を活用した日々の授業の質的向上を図る研修を一層充実させていく必要がある。 (指標1-①(1)-2, 3)
	(2) 英語が使える人材育成	<ul style="list-style-type: none"> □国際社会に対応した教育の体系的な実践 <ul style="list-style-type: none"> ○英語・外国語の授業の充実 ○小学生英語活動集中プログラム ○ALTの効果的活用 ○中学生夏季英語研修（English Camp） ○中学生海外派遣研修事業 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小6の英語活動集中プログラム、中学生対象の夏季英語研修や海外派遣研修など、系統性を重視した施策を推進した。また、全校にALTを派遣して英語に親しむ環境作りにも努めている。さらに、学校支援指導主事による研修を進めることで、教員一人一人の授業力の向上に努めてきた。 (指標1-①(2))
	2 規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します。		
	(1) 道徳教育の充実		
	■「田村っ子のルール10」の実践		
	■「特別の教科 道徳」の時間の充実		
	○「考え、議論する」道徳の授業実践		
	○地域素材・人材の活用		
	○道徳教育推進委員会の充実		
	(2) 体力の向上の支援		
	□体育の授業と体育的行事の充実		
	○《改訂》「運動身体づくりプログラムの実践		
	○運動量の確保に向けた取組		
	□田村市小学校水泳・陸上大会の実施		

施 策		内部評価	外部評価
1 学校教育の充実	(3) 健康教育の推進 ■放射線・防災教育の充実 ○外部講師を活用した授業 □食育に関する授業の充実 ○肥満・う蝕予防の推進 ○栄養教諭による学校支援	○う歯の保有率や処置率の改善のため、フッ化物洗口事業を小学校・幼稚園・こども園で実施してきた。希望制であるが、実施率は小学校が98.2%、幼稚園・こども園が99.0%である。次年度からは中学校でも実施することで、一層のう歯予防を推進していく。 □健康教育に関する指導の充実 ○薬物乱用防止教室等の開催 ○歯科保健教室、思春期保健教室の開催	B ○運動身体プログラムを活用して、引き続き適切な指導で、児童生徒の体力向上をお願いしたい。 ○肥満、う歯は生涯を通じて問題になるので幼少時期からの良い習慣を推進してほしい。 ○家庭でのおやつの食べ方に問題があるのではないか。 ○学校給食の献立は、食育メニューや緊急メニューなど工夫されている。
	(4) 読書活動の推進 □読書活動推薦計画の作成と実践 ○読書習慣づくり ○学校図書の整備・充実 ○巡回学校司書の活用	○歯科保健教室、思春期保健教室、薬物乱用教室等、外部講師を活用することで、健康教育に関する指導の充実を図ることができた。(指標1-②(3)) ○学校司書の配置により、図書館蔵書の整理並びに環境整備が進み、図書館利用者数並びに読書量が増加している。(指標1-②(4))	A ○薬物乱用防止教室は、薬剤師等専門職の方をおおいに活用して頂きたいと思う。「ダメ ゼッタイ」をスローガンに、ならぬことはならぬ精神と子どものうちから認識させたい。 S ○読書離れは学年が進むにつれ多くなる傾向があり、意図的な読書指導が望まれます。 ○子どもだけの読書カード及び親子の読書カードの活用による工夫が見られたことがよかったです。 ○読書量が増えることが目標。計画どおりであった。
	(5) 特色ある教育の推進 ■田村市こども議会の開催 □9年間を見通したキャリア教育 □地域素材を生かした総合的な学習の時間授業	○こども議会の開催により、児童生徒の市行政への興味・関心を高めることができた。 ○各学校において、地域ボランティアを活用した郷土に関する教育が進められている。	A A ○日本の若者は政治への関心が低いといわれており、大変すばらしい事業です。 ○より良い町づくりのために、一つの議題に対して大人が真剣に意見を交わしているという市政の仕組みや流れを感じられたのではないか。次年度も開催されることを希望する。 ○他市県では、すでに取り組みがなされている。今後どのようにつなげていくのか。継続してほしい。
	3 一人一人のニーズに応じた教育を推進します。 (1) 特別支援教育の充実 □特別支援教育支援員の配置と研修 □通級指導教室の啓発 □「サボネット田村」運営の充実 ○サボネットファイルの活用 ○研修会や啓発セミナー等の実施 ■就学時前幼児への早期相談 ○こども未来課との連携強化 ○「すくすく教室」との連携	○特別支援教育支援員21名を幼稚園、小・中学校に配置し、個別の支援が必要な児童生徒に対して、きめ細かな支援ができるようにした。また、9月末に児童生徒の実態や成長に応じて配置換えを行い、ニーズに応じた適切な支援を行うことができた。 ○市保健課「すくすく教室」に指導主事を派遣し、参加した保護者に対しての相談や就学に関する情報提供を行った。 ○田村市特別支援啓発セミナーを開催し、特別支援教育の進め方や支援の在り方についての研修を行った。 ○こども未来課、保健課と定期的に情報交換する場を設け、就学に関してより適切な相談支援を行うことができた。 ○たむら支援学校との連携のもと、切れ目のない支援体制整備事業を活用し、適正な就学指導の在り方についての学校への指導と助言を行うことができる体制を整えることができた。 (指標1-③(1))	A A A ○特別支援教育のニーズがますます高まると考えますので、障害を持つ児童生徒への対応に万全を期していただきたい。 ○保護者・地域への特別支援教育の理解を深めていただきたい。 ○特別支援啓発セミナーの講師のお話が支援を必要とする子どものことをよりわかりやすく理解できる方法だと思うので、たくさんの方にセミナーに参加してもらいたい。いろいろな情報も横のつながりも活用して支えていってほしいと思う。

施 策		内部評価		外部評価	
(2) 学校への適応指導の充実 (いじめ・不登校防止等への対策) □適応指導の充実 ○学級生活満足度調査（Q-U調査）の実施と活用（小3～中3） ○小・小連携、小・中連携交流事業 ○異校種間の接続時における指導の工夫 ■いじめ、不登校への迅速で適切な対応 ○市「いじめ防止等に関する条例」に基づく体制の整備 ○心の教室相談員の中学校配置と小学校への派遣 ○SC及びSSW派遣事業の活用 ○「ほっとスペース」との連携	○学級生活満足度調査（Q-U調査）を年に2回実施し、児童生徒の心の状態及び変容を把握し、個に応じた支援ができた。いじめや不登校の未然防止に役立っている。 ○教職員に対して、「いじめ・不登校対策研修会」等のさまざまな研修を通じ、いじめの認知と早期対応の重要性について周知することができた。 ○「田村市いじめ問題対策協議会」を実施し、各関係機関との連携、情報共有の在り方を確認することができた。 ○学校への支援として、教育相談に対する支援を推進した。心の教室相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置を積極的に行い、不登校児童生徒への支援の充実が図られた。（指標1-③(2)）	A	○いじめ、不登校への対応を誤ると大きな問題に発展する恐れがありますので、今後とも適切な対応に万全を期してください。	A	
4 地域に開かれた学校教育を実現します。 (1) 求める子ども像の地域との共有 □教育実践成果の積極的な公表 ○教育実践報告会の開催 ○教育委員会ホームページ等による広報 ○市広報誌への掲載	○教育実践報告会においては、学力向上の取組の発表と学校教育指導委員による研究実践の報告を行った。参加した教職員が自分自身の日々の授業を振り返る機会となつた。	B	○教育実践報告会を見学させていただき、その取り組みは素晴らしい感じた。 ○教育実践報告会では、指導に当たった先生方の努力が伺えた。9年間の義務教育の中で、保護者が先生方の発表を見ることなく終わってしまうのは残念だと思う。せめて土曜・日曜の開催は出来ないものか。	A	
1 学校教育の充実 (2) 開かれた学校づくり ■教育活動の積極的な公開 ○学校だよりの発行 ○ホームページ活用等による情報発信 ○「学校へ行こう週間」の実施 □学校評価による学校運営の充実 ○学校評議員の委嘱と学校運営への参加 ○学校評価公表、学校関係者評価の充実 □学校運営協議会制度導入の調査研究 (3) 地域教育力の積極的活用 ■地域ボランティアの積極的活用 ○学校支援地域本部事業との連携 ○外部講師の活用	○各学校において随時ホームページを更新し、教育活動を積極的に発信している。閲覧数が増加している。 ○市の学校評価運営に関する事項に基づき、各学校ともに実施している。保護者や地域からの意見等を学校運営に生かすよう努めている。（指標1-④(2)） ○学校支援地域本部事業と連携し、授業や学校行事に対し、地域の方や保護者がボランティアとして協力し、成果を上げている。活用については学校間での差があり、次年度以降位置付けられる「地域連携担当教職員」の活用が臨まれる。 ○県から配置される特別非常勤講師（専門性の高い地域の方）の活用は小学校11校、中学校2校であった。	A	○各学校のホームページや各種たよりは保護者や地域の理解と協力のため有効である。 ○子育てを終えて、小・中学生のいない家庭においては、回覧板でまわる学校便りが唯一学校の情報を知る手がかり。これからも地域に根ざした情報をお願いしたい。	A	
5 学校支援の充実に努めます。 (1) 学校のニーズに対応した教育の推進 □特別支援教育支援員の配置 ■複式学級指導支援員の配置 □田村っ子の元気を支援する事業	○特別支援教育支援員は、小学校7校、中学校2校、幼稚園等4園に対し21名配置し、予定者数を確保できた。要望が多く増員したい。なお、複式学級指導支援員については、教員免許を有する希望者が少なく、予定校に配置できなかった。 ○元気を支援する事業は各学校において工夫した取組が見られた。	B	○地域の教育力に期待したい。 ○下校時見守り隊について、子どもたちの下校時間に合わせて通学路を散歩する、庭の花木に水やりをする。そのついでに子どもたちを見守っていただく。そんな何気ない習慣をお願いするだけでも立派なボランティアではないか。活用の形はいろいろあるが、そんな小さなボランティアもありかと思う。 ○地域へ働きかけてはどうか。	B	
(2) 学校の危機管理体制の充実 □アレルギー、感染症への対応 ○給食食物アレルギー対応体制の確立 ○感染症への対応体制の確立 □非常時情報伝達体制整備 ○緊急時メールシステム ○災害時対応マニュアルの整備と周知	○管理体制の確立により、事故0が達成できた。 ○必要に応じて見守り隊等の地域住民への発信を認めたことで、安全確保と効果的な使用の仕方ができている。	A	○特別支援教育支援員や複式支援員のような人的配置は学校や児童生徒にとって大変ありがたいことですので、よろしくお願ひします。 ○有資格者の確保はどの業界でも頭の痛い問題である。昨今、どうしても差が生じてしまうのは、仕方がないとしても、フォローの方法に期待したい。	B	
			○危機管理体制の定期的な点検について各校へ指導願います。 ○給食センターのスタッフの方々、また連携をとっている種々の機関の方々の努力で、不幸な事故が起こらないよう努めていただいているのは感謝の限りです。これからもよろしくお願いいたします。	A	

施 策	内部評価	外部評価
<p>6 教職員の資質の向上を図ります</p> <p>(1) 教職員の指導力の向上 ■計画訪問等による授業力向上の支援 　○計画訪問・要請訪問・指定訪問 　○校内研修等及び日常的な授業改善への支援 　　(学校支援指導主事) ■学力向上推進会議の充実 　○学力向上推進委員・学校教育指導委員の研修 　○市全体・中学校区単位の授業研究会 　○「活用力育成シート」活用方法の研究</p>	<p>○今年度より学校支援指導主事2名を各学校に派遣し、教職員一人一人の授業力向上のための支援を継続的に行うことができた。</p> <p>○指導訪問・要請訪問については、可能な限り複数の指導主事を派遣し、教職員の指導力の向上に向けた指導助言にあたった。特に、要請訪問では研究授業前に指導案検討を行ったり、一校に継続的に複数回訪問したりすることによって、指導助言の効果が上がった。(指標1-⑥(1))</p>	<p>A</p> <p>○教員の指導力向上のための派遣が効率を上げていることはすばらしい。</p> <p>○要請訪問が多いことはたいへん嬉しい傾向。</p> <p>○教職員といえども人の子。学校や教育に対するクレーム等もあり、先生方の心の健康も心配されます。メンタル面での支援もお願いします。</p>
<p>1 学校教育の充実</p> <p>□各種研修会の充実 　○講師研修 　○小・中英語担当者とA.L.Tの合同研修 　○いじめ・不登校対策研修会 　○養護教諭研修会 　○幼稚園教諭等研修会 　○情報モラル指導者研修会 □教育の情報化対応の充実 　○情報モラル教育の充実と保護者への啓発 　○文書の電子化に向けた研究</p> <p>(2) 服務倫理の確立と働き方改革 　○校内相談体制の構築 　○校内服務倫理委員会の充実 　○教職員の勤務実態把握と適正化支援</p>	<p>○各種研修会では、県中教育事務所指導主事、さらに、専門的知見をもつ講師を招聘し、質の高い研修開催に努めた。特に「特別の教科道徳」や英語及び外国語活動は、新学習指導要領の移行期に向け、研修によって教員の専門性を高めることができた。教育実践報告会では、学校教育指導委員が各自の研究成果発表を行い、授業改善のポイントを市内教職員と考えることができた。</p> <p>○今年度、田村市における教職員の不祥事に関する事案はなかった。服務倫理委員会が計画的に開催され、「当事者意識」で考えることが徹底されてきていると考える。(指標1-⑥(2))</p>	<p>A</p> <p>○研修会により、先生方の新学習指導要領への理解が深まっているので、移行がスムーズに行われることが期待できます。</p> <p>A</p> <p>○不祥事「〇」は大変すばらしい。継続願います。</p> <p>○今年度、不祥事の発生〇件は大いに評価したい。</p>

平成30年度事業実施結果・評価

生涯学習課

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施 策	内部評価	外部評価
1 公民館の活性化を図ります。 <p>(1) 学級講座の充実</p> <p>■市民のニーズを捉えた学級講座の企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級講座の評価と再検討 <p>○学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有</p> <p>○共同開催する学級講座の企画</p> <p>(2) 公民館運営の活性化</p> <p>□市民に愛される公民館づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管理運営体制の検証 <p>○市民に愛される公民館の管理運営方法の検討</p>	<p>○学級講座の事業内容や評価等を各公民館で共有したが、母体となる団体(老人会や婦人会)が組織されている地区については比較的活発に教室が開催されている。教室内容についても事前アンケートや運営委員会で検討を始めた公民館もあり参加者の要望を取り入れ実施されている。一方で一般市民への公募型の教室については参加者の確保について苦慮している。魅力的な教室開催の必要性もさることながら、公民館へ来るきっかけづくりを工夫する必要がある。</p> <p>○各学級教室毎の事後アンケートを実施しているが、結果の共有には至っていない。一般市民を対象とするニーズアンケート調査は実施できなかった。</p> <p>○本年度企画された共同開催事業は、2館合同3回、3館合同1回、5館合同1回を開催しました。今後も、各公民館で事業の見直しを図り回数を増やすなどの検討をする。</p> <p>○都路・大越の行政局併設化、今後予定される滝根・船引の大規模改修、建替方針の検討に伴い、管理運営体制の抜本的な見直しが必要となってきており、民間委託や指定管理等を含め検討をしているが、明確な結論には至っていない。</p> <p>○H30.4月から船引公民館を除く4館が2人体制となり、事業の実施や施設の管理運営に苦慮していることから、事業内容の見直しや施設管理の検討が必要である。</p>	<p>B</p> <p>○学級講座の運営に苦労されていることと推察されます。ご苦労様です。 難しいことだと思いますが、魅力的な教室開催にご努力願います。</p> <p>○職員が減員する一方で、単に例年の講座だけでなく、新たな発想に期待する。</p> <p>○平日昼間のサークル活動等は、一般市民を対象にしてはほぼ無理だと思われる。土・日・夕方など比較的集まれる環境づくりが望まれる。</p> <p>○共同開催が増えていると感じる。</p> <p>B</p> <p>○予算の問題もあると思いますが、十分な地域住民とのコンセンサスの場が必要。住民の理解なくしては信頼を損なうことになります。</p> <p>○從来からの課題であり、引き続き検討してほしい。 ○地域の行事の実施が難しい。 ○管理体制は、合併からの課題。このことが進んでいないように感じられる。</p> <p>○職員2人態勢では、限界があり大変であると思われる。早急な見直しを希望します。</p>
2 放課後子ども教室事業を推進します。 <p>(1) 放課後子ども教室推進</p> <p>□放課後子ども教室の円滑な運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実施校の継続 <p>■コーディネーター及び指導員の育成と確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターの育成 ○指導員の育成 <p>○指導員の確保</p> <p>□放課後子ども教室の周知及び広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教室だより、めだかの学校通信の発行 	<p>○継続で実施している9校で概ね円滑に運営できた。</p> <p>○県中地区研修会・県実践研修会・県社会教育研修会に積極的に参加できた。市が企画開催したコーディネーター・指導者研修会には約50名が参加し、活発な意見交換が図られた。</p> <p>○随時指導員の募集を市のホームページや広報などで実施している。</p> <p>○めだかの学校通信は3月に発行予定。各放課後子ども教室だよりの発行は7校で実施。</p>	<p>A</p> <p>○共働き世帯への応援のためにもぜひ継続願いたい。親も安心して仕事に励める。</p> <p>○9校で概ね円滑に運営できたことは、皆様の努力の賜物と思われる。引き続きよろしくお願ひします。</p>

施 策		内部評価		外部評価	
2 生涯学習の充実	<p>3 学校支援地域本部事業の推進を図ります。</p> <p>(1) 学校支援地域本部事業の円滑な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> □学校支援地域本部事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催 ■地域の人材活用体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターの育成 ○ボランティアの有効活用 ○ボランティアの確保と資質向上 <p>□学校支援地域本部事業の周知及び広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校支援地域本部だよりの発行 <p>4 図書館の機能を充実します。</p> <p>(1) 図書館の機能充実</p> <p>■利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ニーズに合わせた蔵書の確保 ○貸出予約の利便化 ○年代別図書コーナーの設置 ○自主事業の充実 ○図書ボランティアの育成 □子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ○第二次田村市子ども読書活動推進計画の実践 ○子どもが利用しやすい館内環境の整備 ○学習支援機能の充実 ○子どもの読書活動にかかわる関係者の資質向上 □図書館事業の周知 <ul style="list-style-type: none"> ○市民等への広報 	<p>○情報交換会を3回実施。県実践研修会への積極的な参加ができた。</p> <p>○地域をまたいだボランティアの活用を進めているが、一部共有している地域もあるが、全体での共有化にはなっていないため、コーディネーター間の情報交換により、広域的な活用を図っていく。</p> <p>○本部だよりや市ホームページによりボランティアを募集し年度当初411名→451名と40名増加した。</p> <p>○3月に学校支援地域本部だよりの発行予定。</p>	A	<p>○地域には、豊かな経験を持っている人材が多数いると思われます。その能力をぜひ発揮していただけるよう啓蒙してほしい。</p> <p>○地域全体で、学校や子どもたちを支援するという素晴らしい概念の元、進められることに期待しています。</p>	A
			A	<p>○市政だよりで新刊購入のお知らせがあり周知されている。</p> <p>○お話し会を始め、図書館員講座やとしょかん応援隊(ちょボラ)の募集など、わくわくするような良い企画だと思いました。親しみやすさが感じられた。</p> <p>○各学校への出前「おはなし会」の充実を期待したい。</p>	A

施 策		内部評価		外部評価	
3 芸 術 文 化 活 動 の 推 進	1 多様な芸術文化活動を支援します。 (1)芸術文化活動への支援 □芸術文化活動への支援 ○芸術文化団体への支援 ○各地区文化祭・芸能祭への支援	○文化協会の作品展示会と芸能発表会の開催を支援し、作品展示会は10団体270点が展示され約300名が来場し、芸能発表会は55団体66演目が発表がされ約650名が来場した。 ○各地区的文化祭・芸能祭実行委員会へ事業補助金を交付することによって、例年どおり開催された。	A	○優れた作品や発表が多く、もっと多くの市民の方に来場してほしい。 ○職員減員の中で大変だと思いますが、地域文化の継承に努力された。 ○文化祭等は、マンネリ気味なところはあるが、通常の会場が使用できず、コンパクトな会場での催しは狭いながらも工夫がなされ、そういう意味ではコンパクトさが受けたように思われる。	A
	(2) 文化センターを活用した芸術文化の提供に努めます。 □質の高い自主文化事業等の実施 ○文化センター運営委員会の開催 ○小中学校芸術鑑賞教室の開催 ○市民による身近な芸術文化の提供 ○市民等への広報	○年2回(5月・10月)開催した。 ○小学生芸術鑑賞教室(対象:小学5・6年生)は「和楽器鑑賞会」、中学生芸術鑑賞教室(対象:中学2年生)は「演劇鑑賞会」で、それぞれおおむね好評であった。小中学生が本物の芸術に触れる機会はそう多くないので、選定する内容に留意しながら継続していく。 ○自主文化事業では、「よしもとお笑いライブ&SILENT SIREN公開収録」を開催し、チケットが完売するなど盛況であった。次年度も集客が見込める、ニーズにあわせた事業を計画したい。 ○文化センターでの催し物や自主文化事業等を市政だよりやお知らせ版のほかホームページやSNSなど多様な広報に努めた。	A	○市民のニーズに合うことは大切。「吉本は完売」、「落語」の時は100人くらいでたいへん観客が少なかった。 ○子どもたちが本物に触れ合うということでは、文化センターは欠かせない場所だ。ライブから鑑賞会、更なる稼働に期待する。 ○事業の選択には、苦労があるでしょうが地元の施設で見たり聞いたりできることはありがたい。	A
4 文 化 財 の 保 護 と 繼 承	1 地域に残された文化財の保存と継承を推進します。 (1) 文化財の保存と継承 ■文化財の保存と継承 ○文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加 ○指定文化財の防災訓練と防火査察の実施 ○指定文化財の周知 ○民俗文化の保存と伝統芸能の継承 ○田村市史シリーズの継続発行	○文化財保護審議会を予定どおり実施。また県文化財保護指導者研修会に参加。 ○「文化財防火デー」に伴う国指定文化財堂山王子神社での防災訓練と市指定文化財14カ所の防火査察を例年どおり実施。 ○指定文化財標柱は「田子屋の三匹獅子舞」ほか1カ所、説明板は「不動院の算額」ほか2カ所に設置。 ○民俗芸能継承団体へ継承活動の支援(補助交付)を行った。 ○市史9は遺跡をテーマに31年度に発行予定。	A	○文化財は一度なくなると元に戻せなくなる。ぜひ保存と継承をお願いしたい。 ○施設文化財案内(サイン)表示の再確認をしてほしい。 【例】 指定文化財の廃止箇所など ○文化財が数多くある田村市は、その維持も大変だと思います。 指定文化財の周知は、かるたや俳句など子どもたちにも覚えやすいものがあったらどうかと思います。	A
	2 地域の歴史を学び親しめる施設を整備します。 (1)歴史民俗資料館の活用と文化財資料館の整備 □歴史民俗資料館の活用促進 □文化財資料館の整備	○歴史民俗資料館の自主事業は「お茶会」75名参加、「正月飾り作り・もちつき」30名参加、「団子さし」23名参加の3事業を継続実施。また、新たに木工教室「チエア作り」を6回実施し52名の参加。 ○既存施設を有効活用し文化財資料館として利用する方向で検討を進めている。	A	○他市と比較して、文化財保存施設がなく、文化財の紛失・劣化・散逸の危機にあります。早急な資料館・資料室等の整備です。 ○従来からのテーマですが、検討を進めてほしい。 ○既存施設を、利用しての行事は親子でも楽しめる事業でよいと思う。伝統を受け継ぐ良いチャンスでもあるのではないか。	A

施 策		内部評価		外部評価	
5 ス ポ ー ツ レ ク リ エ － シ ヨ ン 活 動 の 推 進	1 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。				A
	(1) 運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大	○県内外からの高校、大学の合宿誘致	○県外高校等の合宿での利用は1校、2回の利用で、今後も施設のPRや市内の宿泊施設と連携を深め、大学や企業の合宿誘致活動に取り組んでいく必要がある。	○県レベルの大会が多数実施されていることはすばらしい。	A
	○県レベル各種大会の誘致	○県レベル各種大会の誘致は総合体育館6大会、陸上競技場8大会、多目的運動広場2大会であった。総合体育館の利用は市内スポーツ団体の利用が多いので、県レベルの大会の誘致は総合体育館以外の体育施設を含めた利用調整をさらに検討する必要がある。	○施設の利用をPRするために、ホームページはもとより、市の広報紙を使って行事の内容や結果等を常に載せてもらうコーナーを作ったらどうか。		
	○施設のPR	○各施設の写真等や事業の周知をホームページなどへ掲載し行っている。	○PR・周知の継続を望みます。		
	○クロスカントリーコースの利活用	○クロスカントリー大会、小中学生を対象とした陸上教室の開催や市民がウォーキングなどで活用している。			
	(2) 田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進	○各地で同様の大会やスポーツ少年団の各種大会が開催されていることもあるが、参加者については、例年同程度の参加人数であり、今後参加者を呼び込むため、大会内容の検討なども必要になってきている。	○ロードレース参加者の減少は大変残念。内容検討は急務。	A	A
	○学校・スポーツ団体との連携による参加者の拡大		○親子の部は増えている。小・中学生の協力を得て参加者を増やす。		
	(3) ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦	○一昨年から田村市陸上競技協会が中心となって、クロスカントリーコースを利用し陸上教室を開催して若手アスリートの育成に努めている。	○ロードレースは市の目玉行事です。児童・生徒の多くの参加を望みます。	A	A
	○年間を通した質の高い練習、スタッフの確保	○市陸上競技協会へ委託し、選手の練習等について市と連携しながら行っている。	○今年度の活躍は、市民に勇気と喜びを与えてくれました。		
	○田村市チーム運営の委託契約		○職員、スタッフの奮起に感謝いたします。		
2 スポーツ・レクリエーションを通した交流を推進します。			○ふくしま駅伝は毎年優秀な成績、本当にうれしいです。仕方がないことかもしれません、5町の地域で出る選手がいないところもあるようなので、せめて1町1人は出てほしいと思う。		
(1) 小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催	○ソフトボール大会、駅伝大会等の開催	○あぶくま洞大多鬼丸旗争奪児童ソフトボール大会、ビートル駅伝大会等を開催し、市内外から多くのチームが参加し、大会を盛り上げた。	○市内の他、市外からも多数参加があったことはすばらしい。	S	S
	○スポーツ教室の開催	○小中学生を対象としたスポーツ教室の開催(バスケットボール、バレーボール、サッカー、卓球)実業団の選手から指導していただき素晴らしい教室が開催できた。	○プロのバスケットボールの選手と朝のあいさつ運動や元オリンピックの代表選手の水泳教室など、極められた方たちからの指導やふれあいに子どもたちも感激したことでしょう。これからもこのような出会いに期待します。		

施 策	内部評価	外部評価	
<p>3 活動を支える充実した指導体制を確立します。</p> <p>(1)指導者対象の研修会、講習会の開催</p> <p>□スポーツ推進員研修会・講習会 □スポーツ講演会の開催</p> <p>□スポーツ講演会の開催</p>	<p>○県スポーツ推進委員研修会への参加や田村地方スポーツ推進委員講習会「ヨガ教室」を開催してスポーツ推進委員としての資質の向上を図った。</p> <p>○元プロ野球選手「牧田明久氏」の講演会を3月9日に開催。</p>	<p>A</p> <p>○指導者の指導力が選手の成績に直結するので、研修の機会を多くしていただきたい。</p> <p>○地域の特色ある活動に敬意を表します。 ○体育協会やスポ少の指導員の皆様の日々の努力は、頭が下がります。感謝です。</p>	<p>A</p>

平成30年度事業実施結果・評価

教育総務課

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施 策		内部評価	外部評価		
教育行政の円滑な推進と効率的運営	<p>1 教育委員会の活性化を図ります。</p> <p>(1) 開かれた教育委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> □教育委員会の透明性を高める取組 ○所管事務の調査、施設等の視察 ○意見交換会の開催 ○会議運営の工夫、内容の公表 <p>(2)教育委員会施策の重点化</p> <ul style="list-style-type: none"> □教育推進プログラムの重点化と自己評価 ○ダイジェスト版の策定 ○教育振興推進プログラムの自己評価 <p>(3)外部評価と公表</p> <ul style="list-style-type: none"> □外部評価委員による評価及び公表 ○外部評価委員会の定期開催 ○評価結果の議会報告とホームページ掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設訪問3回 <ul style="list-style-type: none"> ①H30.9.25(火) 滝根小学校を訪問し学校の概要、児童の活動状況の把握と、滝根幼稚園を併設するための現状把握 ②H30.10.23(火) 都路中学校を訪問し、ネパールオリンピックチームとの交流授業を視察。古道体育館耐震改修大規模修繕工事の概要把握と現地視察。 ③H30.11.20(火) 常葉中学校・常葉小学校を訪問し、学校の概要、H31年度からの5-4制による小・中一貫教育の環境整備の概要と現地視察、3小学校の統合の進捗状況把握。 ○市長との教育懇談会 3回(年4回予定) ○次年度事業等の勉強会 ○会議資料の事前配布 ○会議日程のホームページ掲載 ○市長との意見交換 3回 <ul style="list-style-type: none"> 4月17日(火) 7月24日(火) 1月21日(月) ○次年度の主な事業についての勉強会 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の現地視察に勝る調査・状況把握はないと思います。可能な限り、多くの実施を望みたい。 ○小・中一貫教育となると、小学校・中学校の交流が盛んになったり、いわゆる中1ギャップも解消されやすいが、心機一転という気持ちの切り替えは薄らぐ気がする。少子化がかなり深刻になり、そのスタイルになって行くのは当然のことなので、推進という形なら見守りたい。 	A
教育行政の円滑な推進と効率的運営	<p>2 教育環境の整備・充実を進めます。</p> <p>(1)田村市総合計画に基づく校舎及び園舎等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> □教育活動の場にふさわしい環境の整備 ○要望や状況をふまえた計画的な修繕 <p>□施設の耐震化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校舎及び体育館の計画的な耐震化工事 <p>(2)学校の安全管理と事故防止</p> <ul style="list-style-type: none"> □児童生徒の安全な学校生活のための環境整備 ○通学路の点検及び危険箇所への対応 ○安全点検後の迅速な修繕 ○防火管理体制の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○常葉小学校塗装工事、屋根防水工事、トイレ様式化工事・滝根中学校トイレ洋式化工事、瀬川小学校屋内運動場修繕工事、船引中学校美術室・排水溝工事をはじめ、緊急性の高い順に計画的に修繕等を実施 ○船引南小学校屋内運動場耐震補強工事を実施 ○通学路に面したブロック塀の安全点検 ○大越中学校ブロック塀の解体、設置 ○各幼・小・中に防火管理者を設置し、防火 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○洋式トイレは時代の要請。速やかな改修をお願いしたい。 ○田村市総合計画に基づきながら、計画的な整備を望む。 	A
教育行政の円滑な推進と効率的運営				B	

施 策		内部評価	外部評価
	(3)児童生徒の通学支援 □児童生徒の通学支援 ○遠距離通学児童生徒への通学支援 ○自転車通学への通学支援	管理体制を確立(新規管理者には、講習会受講による防火管理資格者の確保 4校) ○遠距離通学児童生徒への市補助金交付要綱に基づく負担軽減 小学生5名 中学生12名 ○自転車通学者へのヘルメット購入補助により交通事故防止及び事故発生時の重症化防止 55名 ○常葉地区小学校の統合に伴い、通学バス3台の購入と通学バス運行経路の試走確認 ○園児・児童・生徒のスクールバス乗車の安全確認(職員による試乗) ○通園・通学のあり方に関する検討委員会で、スクールバスの利用基準等を検討	A ○大越中学校のブロック塀の解体、フェンスに変わったことにより、安全面ばかりでなく、学校の中の様子が見えてより明るくなり、地域住民との距離感が縮み学校が身近になったような気がする。 ○通学補助は保護者にとってありがたい制度です。 ○利用基準の明確化と周知はトラブルや不満解消のため大切。 ○スクールバスの運行では、これで満足ということではないので、引き続き安全運行に向けて注視してほしい。 ○通園・通学の在り方にに関する検討委員会で、スクールバス通学ばかりでなく徒歩・自転車・マイカー利用のあり方も検討して頂きたい。
6 教 育 行 政 の 円 滑 な 推 進 と 効 率 的 の 運 営	3 教育予算を効果的・効率的に執行します。 (1)教育予算の効果的運用 □田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行 ○教育大綱に基づく重点事業の設定 ○予算編成ヒアリングの実施	○教育大綱の重点施策に基づく事業の計画、予算の執行 ○各幼・小・中に対する予算編成に向けたヒアリング及び現地確認の実施	A ○限られた大切な予算の適正な執行のためにも、現場へのヒヤリングを実施していただきたい。 ○適正に活用されていると思う。
	4 人材育成を推進します。 (1)高校生・大学生の就学支援 □奨学制度の効果的な運営 ○奨学制度の周知	○広報 2回、ホームページ掲載 1回、 ○市内各中学校、市内在住の高校生が在籍する高校への周知依頼 22校	A ○広報紙や防災無線の活用をますます実施していただきたい。 ○広く周知されており、今後も期待したい。
	(2)高校生の海外留学支援 □海外留学支援制度の周知 ○海外留学支援制度の周知	○広報2回、ホームページ掲載 1回 ○田村市内在住の高校生が在籍する高校に対し、制度の周知 22校	A ○未来の田村市をしょって立つ若者にチャンスを！。これからも応援したい。
	5 教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。 (1)少子化に伴う複式学級解消に向けた学校規模の適正化推進 ■学校規模の適正化推進 ○各地域の現状把握	○今後の児童生徒数の推計 ○公立小中学校の適正規模、適正配置等に関する教育講演会の開催 ○常葉地区小学校統合に向けた準備委員会、小委員会への出席 ○関本・西向小学校の閉校に向けた準備 ○関本・西向小学校の閉校式開催 ○関本・西向小学校の引越し作業	A ○少子化の急激な進行が進んでおり、地域の存続さえ危惧されます。学校統合と共に少子化対策を市全体で進めていただきたい。 ○常葉地区の小学校統合の益々の発展を祈りつつ、環境の変わる子どもたちの心のケアもお願いしたい。

～ IV 結びに ～

VI 結びに

平成27年4月に「田村市教育大綱」を策定し、基本方針である「未来を担う人づくり」に向けて、次の6つの重点施策を掲げました。

- 1 学校教育の充実（豊かな人間性、社会性を持ち、21世紀をたくましく生きる園児・児童・生徒の育成）
- 2 生涯学習の充実（豊かな人間性を育む生涯学習の振興）
- 3 芸術文化活動の推進（豊かな人間性を育む文化の振興）
- 4 文化財の保護と継承
- 5 スポーツ・リクリエーション活動の推進（元気で活力をはぐくみ、心をうるおす健康・体育・スポーツの振興）
- 6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

この重点施策を実現するため、担当課ごとに「教育振興推進プログラム」を作成し、具体的な事業内容を設定して教育振興の充実に取り組んでおります。

また、田村市教育委員会では、「地域が育て地域で育つ市民参加の教育」を実現するため、事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、その結果を市民の皆さんに公表することを通して、より効果的な行政を推進してまいりたいと考えております。

教育の目的は、「人格の完成」や「生きる力の育成」を目指すものであり、その成果を数値で示すことは難しい面もあり、事業実施の結果や予算の費用対効果が直ちに表れるものばかりではありません。

しかしながら、適切な指標をあげ、点検・評価及び改善しながら、課題解決に向けて実践することは不可欠であります。数値に表れにくい子どもの変容や意欲・姿勢についても可能な限り取り上げ、継続的に調査・考察・分析を行い、報告書の作成に努めました。

さらに、今回の点検・評価にあたっては、その評価の客観性を確保する観点から、外部評価委員として次の学識経験者に依頼し、ご意見をいただきました。

三 輪 幹 治	元船引小学校長
赤石沢 晶	元都路公民館長
佐 藤 よしえ	元保育士

各学校の教育活動の充実と教育委員会所管の事務事業の推進は、一体のものであります。田村市教育委員会といたしましては、今回、外部評価委員からいただきました評価や意見を教育施策に生かしてまいります。

更には、日頃より保護者や地域の方々からお寄せいただいている評価やご意見を大切にし、今後とも各学校等における教育活動の充実のために、教育施策の点検・評価を実施し、適切な手立てを講じながら、効果的な教育行政を推進してまいります。